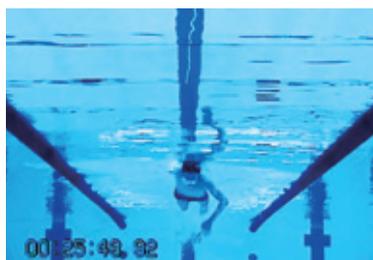
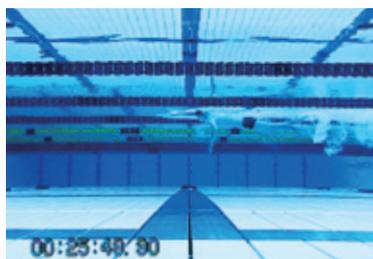
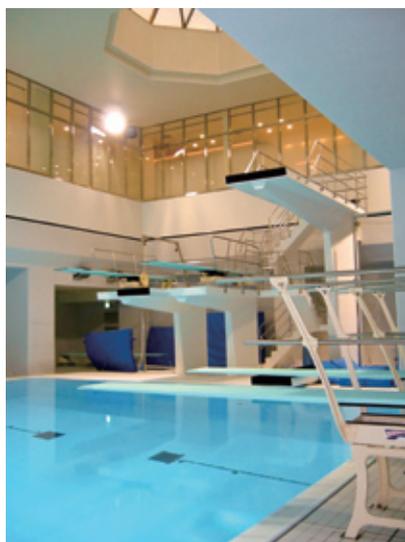
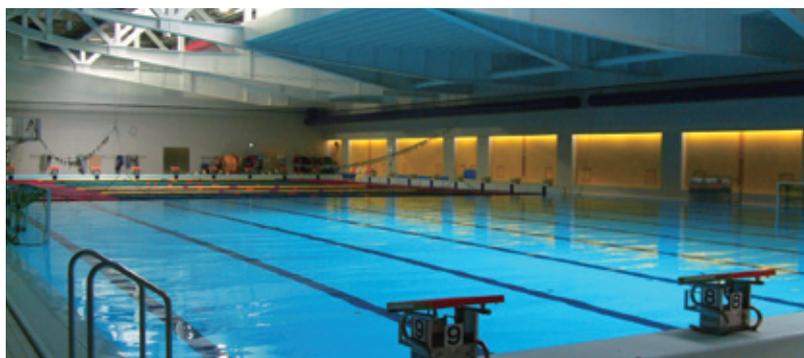


平成21年度 慶應義塾大学体育研究所 活動報告書

特集：協生館プールでの1年を振り返って



目 次

「巻 頭 言」(植田所長)	1
I. 特集 『協生館プールでの1年を振り返って』 鳥海 崇・森下愛子	3
II. 研究活動記録(研究委員会)	
1. 個人研究業績・教育業績・研究助成	11
2. 所内定例研究会発表会要旨	23
3. 大学体育指導者中央研修会報告	30
III. 教育活動記録(教育委員会)	
III-1. 授業の実施	
1. 平成21年度体育科目の履修者統計	35
2. 授業評価の実施	39
3. 通信教育部対象の科目	47
4. 他学部および塾内における授業協力	48
III-2. スポーツイベントの開催(スポーツ振興委員会)	
1. 塾長杯・塾内競技大会	49
2. 体育科目ガイダンス期間中のイベント	50
3. 公開講座(他)	51
4. 所内施設の開放	51
IV. 業務活動記録(石井主事)	55

巻 頭 言

大学体育研究所

所 長 植 田 史 生

スポーツは、もともと遊びや気晴らしで自発的で自由な活動です。そして、スポーツを通して教育を行う時体育であり、実践的に学ぶ場が体育科目です。体育は、身体に関わる教育です。1830年頃、イギリス、ラグビー校のトーマス・アーノルドはスポーツを教育に取り入れ教育制度を新しい時代に適応させました。このことがパブリック・スクールでのジェントルマン教育としてのボールゲーム（チームスポーツ）を中心とした教育活動です。19世紀のヨーロッパでは、かなりの程度までスポーツが普及し、教育にスポーツを取り入れ心身の均衡を理想的な人間性と思なす傾向が広がっていました。このことが近代オリンピック開催への要因となったのです。

近年、身体を実際に動かし、体験する事なしには理解できない「知」といわれる「身体知」が、教養教育として重要視されています。本研究所では、塾生がスポーツ・体育を通して思想や文化、身体に関するさまざまな価値を幅広い視野で考え、基本的な教養を身につけていく一助を担うべく努力しています。

2008（平成20）年8月に協生館の完成により、2年間閉講していた「水泳」を「総合的な水泳教育」として本年度から開講しました。「塾生皆泳」は小泉信三先生が唱えましたが、「皆泳」というこの言葉はハーヴァード大学で使用されたようです。諸説あるようですが、そのひとつは1912年のタイタニック号沈没までさかのぼります。4月14日夜、ニューファンドランド島南方沖の北大西洋上で処女航海中に濃霧の為冰山に衝突。翌日未明沈没。乗客、乗員2224人中死者は、1513人を数えました。この海難事故でハーヴァードの学生が、数人死亡しました。その中の一人に Harry Elkins Widener 氏がいました。彼は客室においていたゲーテンベルク聖書をとりに戻った為に帰らぬ人となりました。その後 Harry Widener の母は、彼の蔵書を基に図書館を寄贈します。その図書館が、Widener 記念図書館です。その時の条件が、大学の学生すべてが水泳の試験をパスし泳げるようになる事。学生が、24時間いつでも図書館が使える事。そして、すべての寄宿舍での食事のデザートに息子が好きだったアイスクリームが必ずある事の3点だったそうです。このことによりハーヴァードでは、「皆泳」が目標となりました。しかし現在は、1970年代に水辺の近くに住んだ経験のない学生に対する差別に当たるとか、1990年代になると身体が不自由な人に関する差別にあたるという理由で「皆泳」ではないようです。

福澤先生は、1890年の大学部設置にあたり、ハーヴァード大学に数名の教授の推薦を依頼しています。その後、多数の教員、学生が留学するなどハーヴァードとの関係は周知の事です。「皆泳」に関しても深いつながりがあるようです。

本研究所は、ヨットやオープンウォータースイミング、プールにおける水泳等「総合的な水泳教育」として海洋・水域での危機管理や協生行動の育成を目指すことで21世紀の新たな「塾生皆泳」を構築したいと考えています。

I. 特集：

『協生館プールでの1年を振り返って』

鳥海 崇・森下愛子

慶應義塾創立150年記念事業の一環として立てられた協生館は2008年8月に竣工した。この協生館の地下には国内の大学体育施設としては異例となる、水泳用（50m×25m）と飛込用（深さ3.8m）の2つの室内プールが完備されており、高さ3mと5mの飛込台、プールサイドの床暖房、サウナ、飛込時の衝撃を和らげる発泡装置などの付帯設備が整っている。また、水泳用50mプールにおいて、その底面積約3分の1は深さが80cmから2mまで動く可動床を備えている一方、300人収容の観客席も備えており、初心者から専門競技まで対応できる構造となっている。そして2009年度からこの協生館プールにおける授業、課外活動、イベント開催等を通じた正式運用が始まった。本記事では年間を通じた協生館プールでの活動とその活用可能性について、簡単に紹介する。

慶應義塾では『塾生皆泳』という伝統がある。その伝統を受け継ぐため、体育研究所では「総合的な水泳教育」を掲げ、多様な水辺スポーツの体験や水泳実践を通じて海洋・水域の危機管理能力や、創発的・協生行動の育成を目指し、21世紀の新たな『塾生皆泳』を構築していこうと活動している。2009年度は週10時限の水泳授業が行われ、春学期・秋学期を通じてのべ349名の履修者数であった。

各学期13回の授業の主な流れは以下の通りであった。

1回目 ガイダンス

（競泳、飛込、水球プールの体験）

2～5回目 競泳プールにて4泳法の基礎

6～9回目 競泳プールにて4泳法の実践

（個人メドレー・リレー形式など）

10～13回目 水球体験、飛込体験

各授業の最後には体温回復を目的としたサウナで授業の振り返りを行った。



50mプールの俯瞰画像



飛込プールと飛込台

授業は新年度4月から開始した。当初は履修者の約半数は泳ぐことができないと想定し、まずは4泳法を泳げるようにすることを目標としていたが、予想に反して実際は履修者の大半に水泳経験があり、泳げない者は約10名のクラスに1、2名の割合であった。このため授業の後半では個人メドレーやリレー形式、さらには水球や飛込の体験等、より実践的な内容を取り入れることとなった。

全授業終了後、履修者からのアンケート結果を整理すると、プール設備に対する好意的な記述が大半であった。特にプールだけでなく、トイレやシャワーなどの設備の清潔さも好印象の要因であった。また、サウナという狭い空間に履修者一同が集まることは親交を深める上で役立った、という予想外のコメントも散見された。しかしながらプールの水温が低く、じっとしていると寒くなること、ロッカーに鍵がかからないため貴重品の管理に不安が残ることなど、今後への課題も見られた。これらの課題に対して現在は授業の組み立てを工夫することで対応している。



水泳授業中の様子

また、夏休みである8月上旬には通信教育課程の夏期スクーリングによる体育「水泳」の授業が行われた。ここでは全国（遠くは台湾）から19歳～70歳まで様々な年齢の履修者が集まった。日々泳ぎ込んでいる者から水に入るのは半世紀振り、という者まで、多彩な顔ぶれであった。受講者24名を教員1名と先輩補助員2名で対応した。当初は深さ2mのプールに戦々恐々として入水していた受講者達だが、最終日の全員参加リレーでは嬉々として水に飛び込むほどの余裕を見せ、サウナでは様々なバックグラウンドを持つ履修者間で強い連帯感が生まれていた。

彼らが発案した、水泳をきっかけとした仲間を意味する「泳縁（えいえん）」という言葉は協生館プールの理念を表す名言であろう。



通信教育課程夏期スクーリングの様子

現在は水泳授業用のホームページを立ち上げ、履修者や今後水泳授業の履修を考えている塾生への情報を提供している。

(<http://web.keio.jp/~keio-swimming-class/index.htm>)

この協生館プールは授業以外にも、附属中学3校、附属高校3校計6部門、大学体育会水泳部4部門と理工学部体育会、医学部体育会の計15団体の水泳部員が練習に使用している。競泳部門には2009年度の日本選手権で平泳ぎ50m、100mで2冠を達成した立石涼（環境情報学部3年）が在籍している。また、水球部門は冬季に強豪チームとの合同練習を行うことで2009年度関東学生リーグ戦2部優勝を飾ることができた。このように協生館プールの効果は早くも目に見える形となって表れている。他にも、水球日本代表が協生館プールを利用して、強化練習を行ったように、塾内だけでなく日本を背負って立つような活動もサポートしている。また、協生館プールでは様々な種目が同時並行的に実施されている。そのため右を向けば水球の力強いシュートに目を凝らし、左を向けば競泳の猛スピードの泳ぎを眺め、後ろを向けば飛込の華麗な入水に目を見張る、という何とも豪華な体験をすることができる。現在は安全面の配慮から観客席の開放は積極的に行っていないが、今後、通常の練習時間においても観客席を開放することで、周辺住民にもプールを訪問していただき、上述のような豪華な体験ができる貴重な場としていきたい。



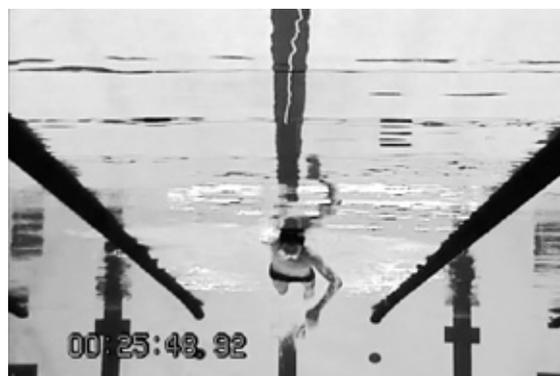
水球日本代表と中国代表の集合写真

また、体育研究所では授業履修者及び体育会水泳部員に対して、水中カメラを用いた動作解析のサポートを行った。3次元水中映像システムとして水中カメラ2台をプール内に沈め、側面と前面の2方向から水中動作を撮影するとともにカウンターを利用することで2つの動画を同期させ、同時期の動作を2方向（側面・前面）から解析することが可能となる。このシステムを活用することで、履修者、部員は自分のレベルにあったフォームを客観的に確認、理解し、解析することができた。

上述のように、協生館プールは中学生から大学生まで数多くの塾生が利用しているため、今後本カメラシステムを用いることで、研究面でも有益なデータが得られるものと考えられる。



同期させた側面からの水中画像



同期させた正面からの水中画像

他にも幼稚舎6年生の水泳特別授業や、普通部中等部水球対抗戦、日本水泳・水中運動学会年次大会のプールサイドワークショップ等を実施することで、協生館プールについて様々な観点からその利用可能性を探ることができた。

幼稚舎特別授業では水泳部水球部門による水球講習会を行った。幼稚舎生にとって日吉キャンパスで受ける最初の授業ということもあり、皆一様に興奮していた。また、大学生と触れ合う貴重な機会ということもあり、幼稚舎教員の方々からも高評価をいただいた。移動経路を工夫し、可動床やシャワーを効率的に使用することで、低年齢層を対象とした大人数が参加するイベントの実施が可能であることを示すよい機会となった。今後は体育研究所として幼稚舎生や近隣の小学生を対象にした水泳教室を展開していきたい。

また、普通部中等部水球対抗戦においては生徒の父兄をプールサイドにて観戦できるよう会場をセッティングした。中学生である選手が目の前で泳ぎ、シュートを打つ様子にプールサイドから父兄が熱視線を注いでいた。観客席だけでなくプールサイドにも観客を動員してのイベント実施が可能であることを示すよい機会となった。観客席からの観戦がよいか、プールサイドからの観戦がよいかなど、今後は観客の特性にあった会場運営を心掛けたい。

さらに、日本水泳・水中運動学会年次大会ではプールサイドワークショップとして競泳用の飛込台の試用、水中ホッケーとアクアダンスの体験が行われた。短時間に、同時進行で、そしてどの種目もこれまで協生館プールでは行ったことのない形式のイベントであったが、特に大きなトラブルもなく成功裏に終わることができた。今後も新しい種目やイベ

ントに対しても積極的に開催可能性を探ることができるよい機会となった。

このように2009年度の活動により、協生館プールでは授業、体育会の練習以外にも様々なイベントの開催可能性を示すことができた。2009年度は安全面などへの考慮から一般開放は見送ったが、今後体育研究所が中心となり、一般開放や様々なイベントを通じて協生館プールを塾関係者、水泳関係者のみならず周辺住民などに利用していただくよう展開していきたい。

以下に、2009年度に協生館プールで行われた主なイベントを紹介しておく。

- 4月 普通部による水泳授業の実施
(1年生全員が週1時限の受講)
- 5月 三田水泳会マスターズ大会
(水泳部員、OBによる水泳記録会)
- 6月 日本代表対中国代表の水球親善試合
- 8月 水泳部塾内記録会
(中学～大学の水泳部員による記録会)
- 10月 普通部中等部水球対抗戦
(普通部、中等部の水泳部による対抗戦)
- 11月 日本水泳・水中運動学会年次大会におけるプールサイドワークショップ

これまで見てきたように、協生館プールは慶應義塾における新たなる水泳教育の場として申し分のない施設であり、体育研究所が中心となり水泳という活動を通じて、今後も更なる慶應義塾の発展のために邁進していきたい。

Ⅱ. 研究活動記録

(研究委員会)

1. 個人研究業績・教育業績・研究助成

植田 史生【教授】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・村山光義, 植田史生, 大城俊夫, “低反応レーザー照射がスポーツのコンディショニングに及ぼす影響”, 日本レーザー治療学会誌 8 : 70-74, 2009.
- ・Ishide Y, Oshiro T, Ueda F, Murayama M, Oshiro T, Takenouchi K, Kohzuma M, “The effect of GAALAS irradiation on the recovery process on muscular strength following muscle fatigue”, Laser Therapy 19: 11-22, 2010.

学会発表等

- ・吉田泰将, 村山光義, 加藤幸司, 植田史生, 内山孝憲, 鈴木文菜, “加速度センサを用いた竹刀剣先速度評価システム開発の試み(その3)”, 日本武道学会第42回大会, 大阪, 2009年8月.
- ・Murayama M, Ishide Y, Ohshiro T, Ueda F, Ohshiro T Jr, Fujii S, Takenouchi K, Kohzuma M, “Effect of irradiation with a gallium-aluminum-arsenide diode laser with on recovery from exercise-induced skeletal muscle fatigue in humans”, 18th congress of the International Society for Laser Surgery and Medicine, Tokyo, 2009.12.
- ・植田史生, 石手靖, 村山光義, 須田芳正, “スポーツ活動における低反応レベルレーザー照射の適用に関する文献的研究”, 第13回日本レーザー・スポーツ医科学学会, 神奈川, 2009年12月.
- ・石手靖, 大城俊夫, 植田史生, 村山光義, 大城貴史, 藤井俊史, 竹之内清文, 高妻光昭, “GaAlAs Laser照射が筋疲労後の筋力回復過程に及ぼす影響”, 第13回日本レーザー・スポーツ医科学学会, 神奈川, 2009年12月.
- ・村山光義, 大城俊夫, 植田史生, 石手靖, 大城貴史, 藤井俊史, 竹之内清文, 高妻光昭, “筋疲労後の低反応レベルレーザー照射が筋力の回復過程に及ぼす影響”, 慶應医用レーザー研究会, 神奈川, 2010年3月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・南ドイツ剣道夏季稽古会講師, 2009年9月
- ・ハーヴァード大学剣道部秋季稽古会講師, 2009年11月

(役職)

- ・第32期(後期)教職員評議委員
- ・日本レーザー・スポーツ医学会理事
- ・ハーヴァード大学剣道部 ヘッドコーチ
- ・ハーヴァード大学剣道部 ライフタイムディレクター

当年中の研究教育活動の概要

日本医用レーザー研究所と共同で, 筋疲労後の GaAlAs 半導体レーザー照射が筋疲労の回復に及ぼす影響について調べた。

例年の事であるが, ハーヴァード大学と南ドイツ剣道夏季稽古会において剣道指導を行った。

近藤 明彦【教授】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・川北準人, 羽鳥健司, 近藤明彦, 市村操一, “スポーツにおけるポジティブな社会的態度の決定要因としての価値観と達成目標” 東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部—第17巻: 123-134, 2010.

(書評)

- ・市村操一, 近藤明彦, “散歩の文化史(2) — König, Gundrum M, (1996) Eine Kulturgeschichte des Spazierganges: Spuren einer bürgerlichen Praktik 1780-1850. Wien : Böhlau —” 東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部—第17巻: pp157-164, 2010年3月.

学会発表等

- ・近藤明彦, 西野明, “スポーツの価値感と達成動機の指向性が競技選手の態度に与える影響について” 日本スポーツ心理学会第36回大会, 東京, 2009年11月.
- ・西野明, 近藤明彦 “心の理論と運動との関係について” 日本スポーツ心理学会第36回大会, 東京, 2009年11月.
- ・近藤明彦, 川北準人, 羽鳥健司, 市村操一, “スポーツにおけるポジティブな社会的態度の決定要因としての価値観と達成目標” 九州スポーツ心理学会23回大会, 福岡, 2010年3月.

安藤 勝英【教授】

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・米国カリフォルニア州立サンノゼ大学柔道指導, 2010年3月.

(役職)

- ・塾体育会柔道部師範
- ・東京学生柔道連盟理事

佐々木玲子【教授】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・佐々木玲子, “発達に伴う動きの男女差”, バイオメカニクス研究, 13, 2, 96-102, 2009.
- ・永野順子, 安広美智子, 佐々木玲子, “中程度強度のダンスが中高年女性の気分にあげほす効果”, 比較舞踊研究, 14・15, 24-31, 2010.
- ・安広美智子, 永野順子, 佐々木玲子, “学校ダンス「フラワーソング」に対する女子学生の受容と「気分」にあげほす効果”, 比較舞踊研究, 14・15, 32-43, 2010.
- ・楠原慶子, 奥山静代, 佐々木玲子, “若年女性の体脂肪率増加を抑える至適身体活動量に関する研究” 立教女学院短期大学紀要41: 135-145, 2010.
- ・楠原慶子, 大森芙美子, 佐藤文, 清水静代, 佐々木玲子, 鈴木明, “短期大学女子学生の踵骨強度と筋厚, 皮下脂肪厚, および体力的指標との関連” 大学体育学7: 13-24, 2010.

(報告書)

- ・佐々木玲子, “基礎的動きに関する評価観点の開発・検証”, 日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 子どもの発育発達段階に応じた体力向上プログラムの開発, 2010.

学会発表等

- ・佐々木玲子, “幼児の基本的な運動能力の発達とその評価”, 日本体育学会第60回記念大会, 広島, 2009年8月.
- ・安広美智子, 永野順子, 佐々木玲子, “中程度強度のダンスが女子学生と中高年女性の気分にあぼす効果—POMSテストとアンケート調査から—”, 第64回日本体力医学会, 新潟, 2009年9月.
- ・海老原修, 桜井智野風, 中村好男, 高峰修, 木村みさか, 佐々木玲子, 長谷川博, 高原和子 “子どもの歩数と生活環境の関係について”, 第8回日本発育発達学会, 山梨, 2010年3月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講演)

- ・東京都体育指導委員広域地区別研修会, “子どもの体力の現状と体育指導委員の役割”, 東京, 2009年9月.
- ・2009年アジア近隣諸国青少年スポーツ指導者研修事業, “Approaches for improving children's physical fitness ~Basic Physical movement to be acquired in childhood”, 東京, 2009年11月.
- ・国立オリンピック記念青少年総合センター企画事業 子どもの体力向上実践指導講習会, “子どもの体力向上に向けて~現状とこれから~”, 東京, 2010年1月.

(講師)

- ・健康運動指導士養成講習会, “青少年期の成長発育とトレーニング”, 東京, 2009年7月, 11月,
- ・(財)日本体育協会 公認ジュニアスポーツ指導員養成講習会専門科目講習会, 京都, 2009年11月
- ・(財)日本体育協会 公認指導者養成講習会(スポーツプログラマー), “ジュニア期のスポーツ”, “対象に合わせたスポーツ指導”, 東京, 2009年11月.
- ・(財)日本体育協会 競技別指導者「コーチ」養成講習会 専門科目(ダンススポーツ) “ダンススポーツとバイオメカニクス”, 東京, 2010年1月.
- ・中野区子ども家庭部保育園・幼稚園分野職員研修「医療職研修」, “子どもたちに今, 大切なこと~子どものからだの現状から~”, 東京, 2009年9月.
- ・東京都私立幼稚園教育研修会第3回教諭研修会, “子どもの発育発達と運動”, 東京, 2009年11月.
- ・親子元気アップ! 事業 コーディネーター全国報告会, “子どもの成長と運動能力の発達過程” 東京, 2010年2月.
- ・特定保健指導に係る運動指導担当者研修会, “女性の運動機能の特徴”, 東京, 2010年3月.

(役職)

- ・東京体育学会理事
- ・比較舞踊学会理事
- ・日本子ども学会理事
- ・「子どもと発育発達」編集委員
- ・(財)日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会委員
- ・(財)日本体育協会指導者育成専門委員会ジュニアスポーツ指導員部会委員
- ・(財)日本体育協会 公認スポーツ指導者海外調査研修事業派遣団員
- ・(財)日本体育協会 子どもの体力向上啓発標語・ポスター審査委員会委員
- ・文部科学省委託親子元気アップ! 事業(財)日本レクリエーション協会事業実行委員会委員
- ・比較舞踊学会第20回学会大会実行委員長

研究助成等

- ・“日本人の基礎的動きの標準値およびデータベースの構築”, 文部科学省科学研究費補助金(基盤研究A)(一般), (課題番号:21240061), 30万円(分担:研究代表者 阿江通良(筑波大学)).

綿田 博人【教授】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・菊地啓太, 中島宣行, 綿田博人, “大学野球における配球について」ーカウント0ー0における投球の分析” 慶應義塾大学体育研究所紀要49: p15ー25, 2009.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(役職)

- ・慶應義塾体育会副理事
- ・慶應義塾高等学校硬式野球部特別招聘コーチ

松田 雅之【准教授】

学会発表等

- ・松田雅之, “200m 走におけるスピード曲線のフィードバック効果について” 日本体育学会第60回記念大会, 広島, 2009年8月.

石手 靖【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・Ishide Y, Oshiro T, Ueda F, Murayama M, Oshiro T, Takenouchi K, Kohzuma M, “The effect of GAALAS irradiation on the recovery process on muscular strength following muscle fatigue”, Laser Therapy 19: 11-22, 2010.

学会発表等

- ・鳥海崇, 春木孝夫, 藤本秀樹, 石手靖, 野村照夫, “大学における今後の水泳教育方法の検討ー米国の水泳関係者の意見からー”, 日本水泳水中運動学会, 神奈川, 2009年11月.
- ・Murayama M, Ishide Y, Ohshiro T, Ueda F, Ohshiro T Jr, Fujii S, Takenouchi K, Kohzuma M, “Effect of irradiation with a gallium-aluminum-arsenide diode laser with on recovery from exercise-induced skeletal muscle fatigue in humans”, 18th congress of the International Society for Laser Surgery and Medicine, Tokyo, 2009. 12.
- ・石手靖, 大城俊夫, 植田史生, 村山光義, 大城貴史, 藤井俊史, 竹之内清文, 高妻光昭, “GaAlAs Laser照射が筋疲労後の筋力回復過程に及ぼす影響”, 第13回日本レーザー・スポーツ医科学学会, 神奈川, 2009年12月.
- ・植田史生, 石手靖, 村山光義, 須田芳正, “スポーツ活動における低反応レベルレーザー照射の適用に関する文献的研究”, 第13回日本レーザー・スポーツ医科学学会, 神奈川, 2009年12月.
- ・村山光義, 大城俊夫, 植田史生, 石手靖, 大城貴史, 藤井俊史, 竹之内清文, 高妻光昭, “筋疲労後の低反応レベルレーザー照射が筋力の回復過程に及ぼす影響”, 慶應医用レーザー研究会, 神奈川, 2010年3月.
- ・石手靖, 須田芳正, 加藤真利江, 大嶽真人, “子どもの教育・発育における地域スポーツクラブの影響に関する研究”, 日本フットボール学会7th Congress, 2010年3月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

- ・早稲田大学オープン教育センター講師 (非常勤), 通年
- ・日本バレーボール学会理事・渉外委員長
- ・日本レーザー・スポーツ医科学学会理事

- ・横浜ビーチバレーボール連盟理事
- ・大学ライフスポーツ教育学会理事
- ・塾体育会副理事

研究助成等

- ・“塾生に対するこれからの水泳教育方法の検討・水泳教育先進国との比較研究”，平成21年度福澤諭吉慶應義塾学事振興基金による研究補助，129.1万円

村山 光義【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・村山光義, 植田史生, 大城俊夫, “低反応レーザー照射がスポーツのコンディショニングに及ぼす影響”, 日本レーザー治療学会誌 8 : 70-74, 2009.
- ・Ishide Y, Oshiro T, Ueda F, Murayama M, Oshiro T, Takenouchi K, Kohzuma M, “The effect of GAALAS irradiation on the recovery process on muscular strength following muscle fatigue”, Laser Therapy 19 : 11-22, 2010.

(執筆)

- ・村山光義, “今、スポーツをどう捉えるか”, 三色旗, 慶應義塾大学出版, 736号 : P12-21, 2009.

学会発表等

- ・Murayama M, Ito R, Uchiyama T, Yoneda T, “Application of a contact-type muscle hardness meter during voluntary isometric contraction”, 14th Annual congress of the European College of Sport Science, Oslo, 2009. 6.
- ・村山光義, “低反応レーザー照射がスポーツのコンディショニングに及ぼす影響”, 第21回日本レーザー治療学会 シンポジウムⅡ「スポーツ医科学における LLLT の応用」, 兵庫, 2009年7月.
- ・吉田泰将, 村山光義, 加藤幸司, 植田史生, 内山孝憲, 鈴木文菜, “加速度センサを用いた竹刀剣先速度評価システム開発の試み(その3)”, 日本武道学会第42回大会, 大阪, 2009年8月.
- ・Murayama M, Ishide Y, Ohshiro T, Ueda F, Ohshiro T Jr, Fujii S, Takenouchi K, Kohzuma M, “Effect of irradiation with a gallium-aluminum-arsenide diode laser with on recovery from exercise-induced skeletal muscle fatigue in humans”, 18th congress of the International Society for Laser Surgery and Medicine, Tokyo, 2009, 12.
- ・村山光義, “筋硬度計測によるスポーツ医学研究”, 第13回日本レーザー・スポーツ医科学学会 会長講演, 神奈川, 2009年12月.
- ・石手靖, 大城俊夫, 植田史生, 村山光義, 大城貴史, 藤井俊史, 竹之内清文, 高妻光昭, “GaAlAs Laser 照射が筋疲労後の筋力回復過程に及ぼす影響”, 第13回日本レーザー・スポーツ医科学学会, 神奈川, 2009年12月.
- ・植田史生, 石手靖, 村山光義, 須田芳正, “スポーツ活動における低反応レベルレーザー照射の適用に関する文献的研究”, 第13回日本レーザー・スポーツ医科学学会, 神奈川, 2009年12月.
- ・村山光義, 大城俊夫, 植田史生, 石手靖, 大城貴史, 藤井俊史, 竹之内清文, 高妻光昭, “筋疲労後の低反応レベルレーザー照射が筋力の回復過程に及ぼす影響”, 慶應医用レーザー研究会, 神奈川, 2010年3月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・明治大学 スキー実習 講師 2010年2月.

- ・順天堂大学 スキー実習 講師 2010年2月.
- ・北里大学 スキー実習 講師 2010年2月.

(その他)

- ・慶應義塾大学教養研究センター第9回シンポジウム「慶應義塾大学の教育カリキュラム研究② ―4年間を見越した教養教育の研究―」, 基調報告パネリスト, 2009年11月.

(役職)

- ・社団法人全国大学体育連合 運営委員 (総務部副部長)
- ・日本レーザー・スポーツ医科学学会 事務局代表

研究助成等

- ・“筋収縮中の筋硬度変化による発揮筋力の推定”, 文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究C) (課題番号: 19500568), 70万円.

当年中の研究教育活動の概要

平成21年度は、科学研究費補助を受けた「筋硬度計測による筋発揮力の推定」に関する研究の完成年度として、データの取得およびヨーロッパスポーツ科学会議における報告等を推進した。また、新たに日本医用レーザー研究所の協力を受け、低反応レベルレーザー照射による筋機能と筋硬度評価に関する共同研究にも着手した。さらに平成21年より日本レーザー・スポーツ医科学学会の事務局を引き受けるとともに、当該年度の学術集会の開催と大会長としての講演も行なった。

山内 賢【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・山内賢 “高齢者を対象にした歩行運動専用ポール導入による体力維持・向上の可能性”, 慶應義塾大学体育研究所紀要49:1-7, 2010.
- ・ラウ優紀子, 山内賢, 川喜多田恵美, 太田喜久子 “高齢者の歩行能力維持・向上を目指したノルディック・ウォーキングの導入について”, KEIO SFC JOURNAL Vol. 9:85-90, 2010.

(報告書)

- ・太田喜久子, ラウ優紀子, 山内賢 “虚弱高齢者の日常生活行動活性化を目指した施設と在宅を結ぶケアシステムの開発” 情報通信技術を基盤としたe-ケア型社会システムの形成とその応用の融合研究, 文部科学省ハイテク・リサーチセンター整備事業平成20年度研究成果報告書: pp81-87, 241-244, 慶應義塾大学 SFC 研究所, 2010年3月.
- ・太田喜久子, ラウ優紀子, 山内賢 “虚弱高齢者の日常生活行動活性化を目指した施設と在宅を結ぶケアシステムの開発—スティック・ウォーキングによる高齢者の日常生活行動活性化を目指した援助技術の開発” 情報通信技術を基盤としたe-ケア型社会システムの形成とその応用の融合研究, 文部科学省ハイテク・リサーチセンター整備事業平成21年度研究成果報告書: pp123-131, p226, 260-262, 慶應義塾大学 SFC 研究所, 2010年3月.

学会発表等

- ・天下聖治, 山内賢, “ノルディック・ウォーキングに関する基礎的研究—介護予防運動への活用を目指して—” 日本体育学会第60回記念大会, 広島. 2009年8月.
- ・山内賢, ラウ優紀子, 天下聖治, “運動による虚弱高齢者の日常生活行動活性化を目指したケアシステムの開発~ハイパーミラーを用いた遠隔体操指導の試案~” 第64回日本体力医学会大会, 新潟. 2009年9月.
- ・山内賢, ラウ優紀子, 天下聖治, 市河勉, “高齢者の運動に効果的なケアシステムの開発~超鏡を用いた

体操指導映像の意匠について～”第68回日本公衆衛生学会総会，奈良，2009年10月。

- ・山内賢，ラウ優紀子，川喜田恵美，太田喜久子，“虚弱高齢者の歩行能力を維持するケア力を高めるための取組み”SFC Open Research Forum 2009，東京，2009年11月。
- ・Lau Y, Yamauchi K, Ogita A, Osita S, Ichikawa T, “Development of care system to activate frail older adults’ activities in daily life (No2) : Effectiveness of walking exercise by synthetic techniques of Chroma-key” The Gerontological Society of America 62nd Annual Scientific Meeting, Atlanta, USA, Nov18-22, 2009.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

- ・大学体育連合 FD 推進部委員 通年
- ・大学体育連合 資格制度検討委員 通年

当年中の研究教育活動の概要

高齢者が自宅で安心して暮らしていくためには、セルフケア能力を維持することが一番である。そのためには、高齢者に対して、自己の生活活動能力に合った運動実施と継続をよびかけ、介護状態にならないように、自発的で楽しい身体活動のプログラムを構築する必要があると考えられる。近年の研究テーマは、高齢者が安全に行える運動プログラムの創造である。本年度は、ボールメディカルウォーキングを高齢者が行ったときの運動効果を通常歩行と比較した。結果は、高齢者の体力維持への貢献度として、歩幅が向上するといった歩行能力の変化や握力と、運動意欲の向上に関与することがわかった。さらに、ボールメディカルウォーキングは、ボールの支持位置が身体の前にあるために、虚弱高齢者に適していることを提案し、藤沢市大庭地区の一部の高齢者に指導・普及した。

吉田 泰将【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

(執筆)

- ・吉田泰将，“教育剣道を受け継ぐ人々”，(株)島津書房：pp42-63, pp120-134, 2009.
- ・吉田泰将，“真剣勝負を生き抜いた武蔵の教え”，生き延びることー生命の教養学Ⅴ，慶應義塾大学教養研究センター慶應義塾大学出版会(株)，pp131-146, 2009.

(報告書)

- ・吉田泰将，(共著)，慶應義塾大学教養研究センター活動報告書2008.

学会発表等

- ・吉田泰将，植田史生，村山光義，加藤幸司，内山孝憲，鈴木文菜，“加速度センサを用いた竹刀剣先速度評価システム開発の試み(その3)”，日本武道学会第42回大会，大阪，2009年8月。

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講演)

- ・吉田泰将，“真剣勝負を生き抜いた武蔵の教え”，慶應義塾大学通信教育部地方試験講演，高知市，2009年4月。

(役職)

- ・財団法人全日本学校剣道連盟 常務理事 通年
- ・財団法人全日本剣道連盟 社会体育指導員養成講習会 講師 通年
- ・全日本学生剣道連盟総務委員会委員 通年
- ・全日本学生剣道連盟・関東学生剣道連盟 審判員 通年
- ・全日本学連剣友会事務局 通年

- ・関東学連剣友連合会事務局長 通年
- ・慶應義塾体育会剣道部（三田剣友会）助教 通年
- ・慶應義塾大学医学部体育会剣道部 師範代行 通年

（資格）

- ・財団法人 全日本剣道連盟 称号：教士号 合格（2009.11）

当年中の研究教育活動の概要

スポーツ技術向上に寄与する指導プログラムの開発を課題として、加速度センサを用いた剣道竹刀の素振りスピード評価システムと映像の即時フィードバックによる技術指導の効果について検討を行った。

加藤 大仁【准教授】

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（講師）

- ・平成21年度日本バスケットボール協会 JBA 公認コーチ養成講習会講師（於 埼玉県）
9月20日（土）大宮北高校，10月18日（日）上尾スポーツ研修センター他

板垣 悦子【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

（報告書）

- ・板垣悦子，“薬学生の身体組成・体力の現状と生活環境との関係”「社会薬学」Japanese Society of Social Pharmacy 28, pp150-151, 2010.

学会発表等

- ・板垣悦子，“薬学生における運動・生活習慣と体力に関する一考察”第7回日本セルフメディケーション学会，東京，2009年10月.
- ・板垣悦子，“男子薬学生の身体組成・体力の現状と生活環境との関係”日本社会薬学会第28年会，東京，2009年11月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（役職）

- ・薬学部「健康づくり教室」講師：（芝共立キャンパス），2009年4月～2010年1月 第4金曜日 毎月1回

当年中の研究教育活動の概要

継続研究テーマである「ヘルスプロモーション支援プログラムの構築」の取り組みの一つとして実施している港区住民対象の「健康づくり教室」に関連して、身体組成や体力測定の数値から運動処方及び健康アドバイスを簡易にできるソフトベースを薬学部教員と共同で開発中である。

野口 和行【専任講師】

著書・論文・執筆・報告書

（執筆）

- ・野口和行，“自然と人をつなぐパッケージド・プログラム—アメリカの最近の動向も添えて”，野外教育情報，日本教育科学研究所：pp72-81，2010.

当年中の研究教育活動の概要

2009年3月より塾派遣留学先のノースカロライナ州立大学で、大学の一般体育における野外活動関連の授業及び、障害者を対象とした野外教育について研究及び研修を行っている。

須田 芳正【専任講師】

学会発表等

- ・植田史生、石手靖、村山光義、須田芳正，“スポーツ活動における低反応レベルレーザー照射の適用に関する文献的研究”，第13回日本レーザー・スポーツ医科学学会，神奈川，2009年12月。
- ・石手靖，須田芳正，加藤真利江，大嶽真人，“子どもの教育・発育における地域スポーツクラブの影響に関する研究”，第7回日本フットボール学会，2010年3月。

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・港区少年サッカー連合医療講習会講師“オランダサッカーの現状”2010年3月。

(その他)

- ・オランダサッカー協会公認2級ライセンス取得
- ・ヨーロッパサッカー連盟公認B級ライセンス取得

村松 憲【専任講師】

著書・論文・執筆・報告書

(報告書)

- ・道上静香，村松憲，“2009ユニバーシアードチームにおけるゲーム・映像分析サポートに関する報告書”，平成21年度 第2回テクニカルサイエンスサポート報告会：pp 1-8，2009。

学会発表等

- ・梅林薫，小屋菜穂子，村松憲，北村哲，平岡珠美，櫻井隼人，井上直子，村上貴聡，“ジュニアテニス選手の体力特性と体力トレーニングの開発に関する研究”第6回 JISS スポーツ科学会議，東京，2010年1月。

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(フィールドワーク)

- ・(財)日本オリンピック委員会強化スタッフ (情報・戦略スタッフ)，通年
- ・(財)日本オリンピック委員会強化スタッフ (医・科学スタッフ)，通年
- ・(財)日本テニス協会強化本部ナショナルチーム・テクニカル・サイエンスサポート (テクニカル部会長)，通年
- ・日本テニス学会運営委員 (審査担当兼編集委員)，通年
- ・慶應義塾大学ア式蹴球保存会会長

当年中の研究教育活動の概要

試合映像を用いた戦術分析を行い、体育会庭球部・卓球部の競技力向上をはかる試みを行った。また、ハイスピードカメラを用いて、フォーム分析を行う試みも、いくつかの部に対して行った。テニス協会の科学サポート委員として、日本代表選手の戦術分析、体力測定などを行った。ハイスピードカメラを用いて世界トップテニス選手のサービス回転量を明らかにする研究も行っている。

鳥海 崇【専任講師】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・Satoru Yamamoto, Olivier S. Barnouin-Jha, Takashi Toriumi, Seiji Sugita, Takafumi Matsui, “An empirical model for transient crater growth in granular targets based on direct observations”, Icarus, 203, Volume 203, Issue 1, pp 310-319, 2009.

(執筆)

- ・鳥海崇, “第85回日本選手権、第26回全国女子水球競技大会レポート”, 月刊スイミングマガジン, ベースボールマガジン社, 86-88, 2009.
- ・鳥海崇, “「比較惑星学」の考え方”, 三田評論, 慶応義塾, 83, 2009.

学会発表等

- ・鳥海崇, 春木孝夫, 藤本秀樹, 石手靖, 野村照夫, “大学における今後の水泳教育方法の検討—米国大学の水泳関係者の意見から—”, 日本水泳水中運動学会, 神奈川, 2009年11月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講演)

- ・鳥海崇, “月周回衛星『かぐや』が明らかにした最新月科学”, 「天からの文(ふみ)を読み解いてみよう—世界天文年に因んで—」日吉キャンパス公開講座, 神奈川, 2009年11月.
- ・鳥海崇, “日食の概要と月探査の現状”, 「太陽活動と地球環境—生命は何故地球に住めるのか—」慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究科シンポジウム, 神奈川, 2009年7月.

研究助成等

- ・“塾生に対するこれからの水泳教育方法の検討・水泳教育先進国との比較研究”平成21年度福澤諭吉慶應義塾学事振興基金, 129.1万円(共同:研究代表者 石手靖)

当年中の研究教育活動の概要

体育研究所での研究、教育活動の初年度となった当年は、協生館プールでの水泳授業の基本方針の立案を課題とした。国内、海外の大学プールの視察、および水泳授業の履修要綱を比較し、大学における水泳教育のあり方を検討した。またその結果を日本水泳水中運動学会にて発表した。

加藤 幸司【講師(有期)】

学会発表等

- ・吉田泰将, 村山光義, 加藤幸司, 植田史生, 内山孝憲, 鈴木文菜 “加速度センサを用いた竹刀剣先速度評価システム開発の試み(その3)”, 日本武道学会第42回大会, 大阪, 2009年8月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・平成21年度 財団法人日本バドミントン協会公認コーチ養成講習会後期専門科目(バドミントン2級)講習会 講師 2010年1月.

(役職)

- ・慶應義塾体育会バドミントン部ヘッドコーチ

奥山 静代【講師(有期)】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・Kagaya A, Ohmori F, Okuyama S, Muraoka Y, Sato K. “Blood Flow and Arterial Vessel Diameter Change During Graded Handgrip Exercise in Dominant and Non-dominant Forearms of Tennis Players” Adv Exp Med Biol. 662: 365-370, 2010.
- ・楠原慶子, 奥山静代, 佐々木玲子 “若年女性の体脂肪率増加を抑える至適身体活動量に関する研究” 立教女学院短期大学紀要 41: 135-145, 2010.

- ・楠原慶子, 大森芙美子, 佐藤文, 清水静代, 佐々木玲子, 鈴木明 “短期大学女子学生の踵骨強度と筋厚, 皮下脂肪厚, および体力的指標との関連” 大学体育学 7 : 13-24, 2010.
- ・Sato K, Sadamoto T, Ueda-Sasahara C, Shibuya K, Shimizu-Okuyama S, Osada T, Kamo M, Saito M, Kagaya A. “Central command and the increase in middle cerebral artery blood flow velocity during static arm exercise in women” Exp Physiol. 94: 1132-1138. 2009.

(報告書)

- ・奥山(清水)静代 “運動時の心拍出量の変化と各種血管への血流配分” 運動時の循環調節機構の統合的解明—スポーツによる健康・体力づくりプログラムの構築にむけて—学術フロンティア推進事業報告書 : pp99-106, 2009.
- ・Kagaya, A., Saito, M., Sadamoto, T., Ferrari, V., Quaresima, V., Kamo, M., Osada, T., Shimizu-Okuyama, S., Sato, K., Iwadate, M., Ohmori, F. and Cettolo, V. “Redistribution of blood flow during exercise; Critical exercise intensity for circulatory and metabolic changes in response to knee extension exercise and its relationship to blood flow to exercising limb”. 運動時の循環調節機構の統合的解明—スポーツによる健康・体力づくりプログラムの構築にむけて—学術フロンティア推進事業報告書 : pp139-151, 2009.
- ・Sadamoto, T., Sato, K., Hirasawa, A., Ueda-Sasahara, C., Shibuya, K., Saito, M., Kamo, M., Shimizu-Okuyama, S., Osada, T. and Kagaya, A. “Role of central command in the cerebral and renal blood flow responses during static exercise” 運動時の循環調節機構の統合的解明—スポーツによる健康・体力づくりプログラムの構築にむけて—学術フロンティア推進事業報告書 : pp 153-164, 2009.

学会発表等

- ・Sato K, Sadamoto T, Hirasawa A, Ueda-Sasahara C, Shibuya K, Shimizu-Okuyama S, Osada T, Kamo M, Saito M, and Kagaya A. “Role of Central Command in Middle Cerebral Blood Flow Velocity During Static Exercise in Humans” The 57rd Annual Meeting of American College of Sports Medicine, USA, 2009.
- ・Sadamoto T, Sato K, Hirasawa A, Sasahara-Ueda C, Shibuya K, Kamo M, Saito M, Osada T, Okuyama S, and Kagaya A. “Role of Central Command in The Renal Arterial Blood Flow Responses During Statc Elbow Flexion” The 14rd Annual Congress of European College of Sports and Science, Norway, 2009.
- ・Sato K, Sasahara C, Shibuya K, Hirasawa A, Okuyama S, Osada T, Kamo M, Saito M, Kagaya A, and Sadamoto T. “Role of Central Command in Cerebral Blood Flow Regulation During Static Exercise” The 36th Congress of the International Union of Physiological Sciences, Kyoto, 2009.

研究助成等

- ・“循環系応答からみた効果的なトレーニング負荷条件に関する研究” 平成21年度慶應義塾大学学事振興資金研究補助金, (個人研究特A) 100万円.

牛山 潤一【助教(有期)】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・Ushiyama J, Wakahara T, Masani K, Kouzaki M, Muraoka T, Fukunaga T, Kanehisa H. “Passive knee movement-induced modulation of the soleus H-reflex and alteration in the fascicle length of the medial gastrocnemius muscle in humans” J Electromyogr Kinesiol 20: 513-2, 2010.
- ・Sasagawa S, Ushiyama J, Masani K, Kouzaki M, Kanehisa H. “Balance control under different passive contributions of the ankle extensors: quiet standing on inclined surfaces” Exp Brain Res 196: 537-44, 2009.

学会発表等

- ・牛山潤一, 高橋裕司, 牛場潤一. “運動競技歴が四肢筋群の脳波筋電図コヒーレンスに及ぼす影響～バレリーナとウェイトリフターを対象に～” 第11回日本電気生理運動学会大会, 京都, 2009年11月.
- ・笹川俊, 牛山潤一, 神崎素樹, 金久博昭. “多関節モデルに基づくヒト静的立位姿勢の制御メカニズムに関する検討” 第11回日本電気生理運動学会大会, 京都, 2009年11月.
- ・牛山潤一, 牛場潤一. “四肢筋群にみられる脳波筋電図コヒーレンスの収縮強度依存的変化” 第64回日本体力医学会大会, 新潟, 2009年9月.
- ・牛山潤一, 政二慶. “足関節底屈筋群の筋量との関連性からみた男女大学生の平衡機能の評価” 日本体育学会第60回記念大会, 広島, 2009年8月.

研究助成等

- ・“脳波筋電図コヒーレンス解析法を用いて四肢の運動制御機構を解明する”, 文部科学省科学研究費補助金(若手研究B)(課題番号:21700594), 320万円(直接経費, 250万円;間接経費, 70万円).
- ・“ヒト骨格筋の静的活動中にみられる筋振動の特徴・メカニズムを解明する”, 慶應義塾学事振興資金(個人研究特B), 50万円.

当年中の研究教育活動の概要

任期満了の最後の年に、亀の歩みで進めてきた研究活動をどうにか学術論文という形でアウトプット出来た。決して褒められた論文編数ではないが、2010年度からの新職場での飛躍に向けて意義ある1年であったといえる(2010年4月より医学部リハビリテーション医学教室に特別研究助教として赴任)。

森下 愛子【助教(有期)】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・森下愛子, 船渡和男, “平泳ぎの1ストローク中の速度変動と水中動作の関連性”, 慶應義塾大学体育研究所紀要49: 9-13, 2009.

学会発表等

- ・森下愛子, 柏木悠, 船渡和男, “平泳ぎのパフォーマンスに影響を及ぼす1ストローク中の加減速と水中フォーム - 男子競泳選手と一般男子学生との比較 -”, 日本体育学会第60回記念大会, 広島, 2009年8月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・学校法人洗足学園音楽大学「体育実技 卓球」非常勤講師, 2009.8.3-6.

当年中の研究教育活動の概要

2009年度は、修士論文の内容ではあるが初めて自身の研究を外部で発表し、いろんな方々からのご意見をいただくことができ、今後の研究活動に活かしていくきっかけとなる1年だった。その第一段階として、平成21年度調整予算でご購入していただいた「水中モニターシステム」2台を用い、2方向から水中映像を同時に撮影したことで、様々な角度から水中動作を確認することができ、研究課題の幅が広がられた。また、この水中モニターシステムを授業で用いた際、学生から「理解しやすかった」と好評をもらった。2010年度は、このシステムを活かして、様々なところで研究の成果を発表していきたい。

2. 所内定例研究会発表会要旨

第1回 4月28日

加藤 大仁

スポーツ権をめぐる法的、政治経済学的考察

ここ数年、スポーツ振興法の改正に向けた政治的な動きが新聞報道の中にも散見されるようになった。先日も教育再生懇談会にてスポーツ庁新設構想が打ち出され、麻生首相や河村官房長官も前向きに検討する姿勢を示しているとの報道があった（日本経済新聞2009年4月18日）。

昨年度の研究会でも報告したように、自民党はスポーツへの国の支援を強化するために、スポーツ振興法を抜本的に改正する方針を固めつつあるようである。スポーツ界からも、北京オリンピックで日本選手団団長を務めた JOC の福田富昭選手強化本部長が、帰国直後に行った会見で、4年後のオリンピックに向けて「スポーツ省」を設立する必要性を強調するとともに、国策として国際競技力の向上に取り組むことの必要性を強く訴えたことに如実に表されているように、スポーツ関連予算の充実が望まれている。もし、スポーツ振興法の改正が実現し、更には現在選手の育成や生涯スポーツ、学校開放など複数の省庁にまたがっているスポーツ関連の政策を一手に引き受けるような省庁が新設されるとなると、我が国のスポーツ政策にとって、大きな転換点となるだろう。

そこで、本発表では、我が国の法体系や、国際憲章、国際体育スポーツ年（2005年）の文書などを紹介し、スポーツの意義や、スポーツの権利性をどのように考えればよいのかについて考察を行なった。

4月28日

村松 憲（浅野基金研究補助による研究成果報告）

小型高速度カメラ「エクシリム」と映像編集ソフト「ダートフィッシュソフトウェア」を用いた映像フィードバック—事例報告—

平成20年度日吉キャンパス調整費および間接経費により、体育研究所の映像機器拡充をはかることができた。購入した機材を紹介しながら、既に行っている映像フィードバックの事例報告を行った。当日は、

- 1) 平成20年度調整費および間接経費により購入した機材の紹介
- 2) 「エクシリム」（小型高速度カメラ）や映像編集ソフト「ダートフィッシュソフトウェア」等を用いた映像フィードバックの事例報告（アンケート結果の呈示を含む）
- 3) 「エクシリム」と「ダートフィッシュソフトウェア」などを用いた実演と、今後の活用案の提示という流れで発表を行った。

映像機器（「エクシリム」「ダートフィッシュソフトウェア」等）活用例

- 大学体育実技授業「テニス」においてサービス動作を撮影（エクシリム1台）→液晶モニタに接続してフィードバック→アンケート調査
- 体育会庭球部・慶應義塾湘南藤沢高等部庭球部に対して2つのエクシリムで同時に撮影→液晶モニタでフィードバック（部員同士のディスカッション）→4画面動画作成
- 体育会卓球部に対してエクシリム1台で撮影→液晶モニタでフィードバック→後日ダートフィッシュソフトウェアで2画面動画作成
- テニス日本代表ジュニア選手に対してエクシリム1台でサービス動作撮影→液晶モニタでフィードバック

第2回 5月26日

佐々木玲子

舞楽における基本動作のバイオメカニクスの分析

【目的】

舞楽は、古代日本の音楽や舞とアジア諸国の楽舞が融合して大成した東洋の総合芸術といわれる。その歴史は古く、日本では奈良時代に設置された公的な音楽機関である雅楽寮のもと、国家の儀式などで奏楽がなされるようになった。舞楽における舞の動き（型）は現在まで伝承されているが、その指導方法については特別記述されていない。本研究では、舞楽の基本的動作について分析し、客観化し、その動きの特徴を明らかにすることを目的とした。

【方法】

舞楽歴30年の熟練した男性の舞手を対象として、いくつかの舞楽右方舞の基本的動作について、映像による3次元動作解析（FrameDias IV;DKH）、床反力特性（Kislar）、下肢の筋活動（大腿直筋、大腿二頭筋、前頸骨筋、ヒラメ筋）からその特徴をみた。基本的動作としては、「舞台登場時の歩行」「出手」「摺拓」「追足」のひと続きの動作を取り上げた。

【結果および考察】

歩行の特徴：舞楽の歩行は普通歩行とは異なり、身体重心の垂直方向の変動が小さく（床反力および映像解析）、下肢全般に運動中の持続的な放電が見られた。これらの現象は日本舞踊や能の歩行に共通する部分もあるが、舞楽の歩行においては接地が踵からであり動作そのものはすり足などの歩容とは異なるものであった。

基本動作（所作）の特徴：舞楽の中には、脚を深く屈伸しながらゆっくりと左右に身体を移動させる動きが頻繁に見られる。その代表的な動作である「出手」では、身体重心の変位が水平方向、垂直方向ともに時

間差を持ってゆっくりと変化し、それがいわゆるU字形の移動軌跡を示した。このことは指導の際に用いる言語表現と一致するものであった。このときの下肢の筋活動には、全般に持続的に放電が見られ、特にヒラメ筋の持続的活動が顕著であった。これらは舞楽特有の動作における下肢の特徴的な使い方と考えられる。

板垣 悦子

ヘルスプロモーション支援プログラムへの取り組み—健康づくり教室の紹介—

「教室」の目的は、受講生が「健康への意識を高め、自らの健康をさらに改善し積極的に健康生活を送れるように支援することにある。具体的には「教室を健康づくりのきっかけとしてもらい、運動習慣の獲得を目指す」ことにあるが、さらに学生をボランティアとして参加させることで、生活習慣病予防の健康づくりの基本的知識を学びながら、幅広い年齢層の受講生とのコミュニケーションをはかり、学生自身体験学習し、薬学部の理念である「人に優しい薬剤師」を目指すことも目的の一つである。

特徴として大学の教員（医師・薬剤師・体育教員）、学生、薬局（栄養教室）が連携し合って受講生へヘルスプロモーションすることにある。

今後は受講生が短期的でなく、長期に亘り、「健康・体力」を維持増進していけるようなシステムを構築していきたいと考えていきたい。具体的には「健康づくり教室」以外でも適切な身体活動量を確保することができるようなしくみ作りである。そのためにまずは、日常の身体活動量の実態調査をし、基礎的な資料を分析、検討し個人の身体特性や体力、生活習慣に合わせた支援プログラムの作成、提供をしたいと考えている。

第3回 6月30日

鳥海 崇

月周回衛星「かぐや」から得られた月科学の最新知見

本研究所に着任するまで進めていた、惑星科学の研究内容、特に月探査の現状について紹介した。月を周回する人工衛星「かぐや」は、これまで月面及びその地下構造を観測してきた。今年6月11日にその観測を終えて月面に落下・衝突し、約1年半の探査・観測を終えた。

このような月を周回する人工衛星は日本の「かぐや」が先駆けであり、今後はインドの「Chandrayaan (チャンドラヤーン)」、中国の「嫦娥 (ジョウガ)」、米国の「LRO (Lunar Reconnaissance Orbiter)」などが次々と打ち上げを予定し、アポロ以来の月大探査時代に突入している。本発表では「かぐや」の観測結果を通じて得られた月科学の最新知見を紹介した。

月は地球から見える表側と、地球からは見えない裏側とでは表面構造が大きく異なるという「月の二面性」が指摘されている。これまでの研究により、月の表側は裏側に比べ、約10億年も長い間大規模なマグマの海が存在していたことが分かっている。しかしながら今回の「かぐや」搭載のカメラにより撮影された画像を解析することで、月の裏側にも表側にある大規模なマグマの海と同じように長い間存在したマグマの海の痕跡が見つかった。この発見はこれまでの月の裏側の常識を覆す結果であり、月の表側と裏側という従来の大雑把な「月の二面性」の議論では月の形成を理解することは難しいことがわかってきた。

今後、インド・中国・アメリカの探査機が月を観測し、更なる結果を出してくることが考えられるが、このような月の形成についての常識を覆す結果を日本が他国に先駆けて発表したことは日本の惑星探査業界や科学界に

おいて重要なことである。また、他国の観測結果により、この数年で月に対する理解は大幅に進むことが考えられ、このような変化を一般社会にわかりやすく伝えていくことは同じく科学界において重要なことである。

このような月に代表される星の歴史の研究は、星そのものを理解するために行われるのではなく、その比較対象としての地球をよりよく理解しようというのが根本的な目的である。このように、対象(星)の歴史を理解することで、比較対象(地球)の歴史を補完し、その理解に基づき地球の未来をより正確に予測しようという研究アプローチのことを比較惑星学と呼んでいる。今後はこの比較惑星学的アプローチを水泳教育に転用し、慶應義塾における魅力ある水泳教育の将来像を描き出していきたい。

森下 愛子

競泳選手のパフォーマンスに影響を及ぼす要因に関する研究

競泳選手のパフォーマンスで最も重要視される「水抵抗」への影響の要因として「形態的变化」では、自身が8ヵ月間月に一度、身体組成・形態計測をしてきた結果から、「競泳選手の理想的な形態」とはどういった形態であるのか。その結果、「胸囲が大きく足にいくほど小さくなっていく」ような形態が理想ではないか。また、その形態を持続することが重要となることが推察された。

次に「水抵抗」に最も影響するであろう技術面の一つとして、「平泳ぎの1ストローク中の加減速変化」として、速度計測器(Speed Meter)と水中カメラ(YAMAHA社製)を用いて、速度波形とフォームを同期させ、パフォーマンス(25m平泳ぎのタイム)の違いから比較し、パフォーマンスへ影響を及ぼす要因を検討した。その結果、競泳選手と一般人ではPull時での姿勢に大きな違いがみられた。また、競泳選手間ではKickから

Pull への移行期間に違いがみられることがわかった。

第4回 7月21日

研究委員会企画1

健康マネジメント研究科 非常勤講師

海老塚 修先生 ご講演

スポーツの価値とマーケティング

本年度の研究委員会企画第一弾として、健康マネジメント研究科非常勤講師・株式会社電通 コーポレート・コミュニケーション局次長の、海老塚修先生をお招きし、先生の専門分野であるスポーツマーケティングに関してのご講演を頂いた。

先生にはワールドカップや世界陸上などのイベントのマーケティングを中心に、FIFA（国際サッカー連盟）、IAAF（国際陸連）を始めとするスポーツ団体に対するコンサルティングの実務経験から、いくつかのお話しを頂いた。

20世紀後半におけるテレビと国際通信技術のめざましい発達がスポーツを巨大なマーケティング・メディアに変えたというお話しをから、「スポーツの価値とマーケティング」「スポーツとメディア」など、その動向と構築について、豊富な事例やデータの紹介がされた。スポーツマーケティングを行うことで、企業はどういったイメージを作り上げることができるのか。また、その効果はどういったものになるのか。さらに、“スポーツを売るマーケティング”“スポーツで売るマーケティング”など大変興味深いお話を紹介して頂いた。最後には、“大学におけるスポーツビジネス”について、大学教育においてどこに切り口をおくかなど、今後の課題についてもふれ、所員と活発な議論が行われた。

第5回 10月6日

研究委員会企画2

大学院政策・メディア研究科

仰木 裕嗣先生 ご講演

計測を主体としたスポーツ工学研究

本塾大学院政策・メディア研究科准教授の仰木裕嗣氏にお願い、「計測を主体としたスポーツ工学研究」というタイトルでご講演頂いた。「巧くなるを支援する！」を研究室スローガンに、センサデバイスの開発、センサ信号の評価、インターネット基盤の開発など、多岐にわたる研究分野について紹介いただいた。

- ・3軸加速度センサ・ジャイロセンサによる水泳ストロークの計測では、ペンギンの生態観察に用いられるセンサを応用した背景についてご紹介いただいた。
- ・慣性センサを用いたゴルフスイング診断装置では、プロとアマとのスイング方式の違いがグラフから容易に判断できることがわかった。
- ・同様に慣性センサを用いたスキージャンプの空力特性の推定では、解析を容易にするために回転角速度・角加速度をゼロにするための工夫が紹介された。
- ・現在の研究テーマである、水中歩行時の消費カロリー表示機器の開発では、水中歩行への習熟度合が誤差の原因かもしれない点が紹介された。

他にも扁平足を矯正するインナーソックスの開発など、論文だけでなく特許出願も精力的に進めている点が紹介された。所員からはアイデアの生み出し方や研究時における論文と特許の比重についてなど、活発な議論が行われた。

第6回 10月27日

村山 光義

大学体育の課題を考える

2008年12月に中央教育審議会が「学士課程の構築に向けて」という答申を出し、大学の質保証の議論が高まっている。また、大学の認証評価も2010年で1期目の7年を終え、その内容にも変更が加えられている。そして、大学教育・教養教育のあり方に関する議論が進む中、体育科目のあり方も問われている。しかし、その具体的な議論の方向性や現状の課題に関する認識は様々で、多様な側面から考察する必要がある。そこで、現在の大学体育の課題とされることをまとめるとともに、慶應義塾内外との関連性を考慮して、今取り組むべき事項、検討すべき点などについて報告した。

平成21年8月の日本体育学会における全国大学体育連合企画シンポジウム「“学士課程教育の構築に向けて”をどう読むか」、平成21年10月の同連合企画の「日本学術会議の審議状況に関する講演会」などから、学士課程教育のあり方が読み取れる。各大学は、認証評価の面にも関わり、アドミッション（学生募集）、カリキュラム（教育課程編成）、ディプロマ（学位授与）の3つのポリシーを明確にすることが求められている。さらに、学生支援のポリシーを加え、4つのポリシーに体育科目がどう関わるのか、体育研究所においても深い議論が必要である。体育研究所では、慶應義塾150年に際し、教育目標を明確化し、教育の質向上を目指しているが、大学全体としての教育にどう貢献し、またそれを成果として示すかが重要と考えられる。報告者は、慶應義塾教養研究センターの基盤研究にも参画し、カリキュラム研究の中で、成績評価問題に取り組んできた。この検討から考えることは、教育目標に応じた学習評価を明確にし、体育の取り組みによる成果を形に示すことの重要性である。なぜなら、目標と評価は

セットにして行われるべきであり、本来、ただ単位認定をするためのものではないからである。

最後に、大学教員としての活動を業績として示す際に、これまで、研究業績がまず求められ、次に教育上の業績も加えて求められるようになってきた。しかしながら、日常的な正課の授業は業績として示すすべがない。この3つの活動はすべて重要であるが、今、正課授業の教育成果・効果を何らかの方策で形として示す必要を強く感じる。この糸口が、成績評価・学習評価を用いた教育の質向上、その確認の取り組みであると考えられる。

須田 芳正

オランダ留学報告 ～オランダサッカー強さの秘密～

人口約1600万人の小国であるオランダは、常に世界ランキング上位に入り、多くの素晴らしい選手を輩出している。そのオランダサッカーの強さの秘密を中心にオランダ留学（2007.9－2009.8）の成果を報告した。

1. 指導者ライセンス制度

指導者ライセンス制度の原点は「プレーすること」と「教えること」はまったく別であるという考え方にある。

講習会ではフットボール理論、フットボールコンディショニング、ゲーム分析、指導実践とインストラクターが受講生にオランダサッカーについて徹底的に指導する。

2. 選手育成システム

子供たちは地域のクラブに所属しライセンス指導者のもとで楽しく育成される。年齢別における指導テーマがあり、発育段階に合わせて指導を受ける。

3. アマチュアクラブ

全国に約6000のアマチュアフットボールクラブがあり、誰もが自分のレベルに合ったチームでプレーすることができる。また、地域のクラブはサッカーをするだけでなく、地

域のコミュニティーの場になっている。

以上の3点がオランダの強さの秘密であると考えられ、特に3番目にあげた全国どこにでもあるアマチュアクラブの存在が指導者や子供たちの経験の場になっており、オランダサッカーを支えているのではないかと思われる。

第7回 12月1日

村松 憲

- 1) 映像を活用した体育会サポート
- 2) 世界トップ選手のテニス・サービス時インパクトについての研究

1) 体育会庭球部と卓球部に対して、映像を活用したサポートを行った。ダートフィッシュソフトウェアの「タギング」機能を用いた戦術分析と、同じく「アナライザー」機能とハイスピードカメラを用いたフォーム分析などを行い、競技力向上を目指すサポート活動を行ったので、その内容について報告した。なお、本サポートとの関連については明らかでないが、庭球部は本年度、男子は関東1部で準優勝し全日本学生王座に出場（昨年度は関東1部で3位、王座出場ならず）、準優勝となり、女子は関東2部で優勝し、亜細亜大学との入替戦に勝利し、10年ぶりに1部に復帰した。また卓球部男子は関東3部で優勝し、青山学院大学との入替戦に勝利し2部に昇格した。

2) 本年度、体育研究所予算で、毎秒1万コマまで撮影できる、デジタルハイスピードカメラを購入して頂いた。このカメラを用いて本年度、楽天ジャパンオープン（世界ランキング10位以内の選手も出場した）において、主としてサービスのインパクトを毎秒1000～3000コマで撮影し、ボールの回転量について研究をすすめているので、これについて報告した。また、全日本選手権、慶應チャレンジャー

（世界ランキング100位台～300位台の選手が中心）においても同様に撮影を行い、レベルによる違いなどについても検討を行っている。

また、このカメラがテニス以外にも、打撃を伴うスポーツにおいて大変有用と考えられるため、他の用途への活用についても考えたい。

第8回 12月22日

牛山 潤一

体育研究所勤務5年間での研究活動レビュー

助教（有期）の契約満了を目前にひかえ、本研究所勤務5年間に行った研究活動をレビューさせて頂いた。発表内容について、研究テーマごとに以下に記す。

- 1) 「腓腹筋の筋束長変化に伴うヒラメ筋H反射の変化」に関する研究

大学院在籍時に実験を行い、入所以降論文執筆作業を行った研究である。足関節底屈の協働筋である腓腹筋・ヒラメ筋間には、実は互いの運動ニューロンの興奮レベルを抑制するような回路があるという報告があり、実際に腓腹筋の筋束長を変化させると、筋束状態に応じてヒラメ筋のH反射の振幅が変化することを明らかとした。本研究内容については、当該分野の様々な学術誌への投稿を試みたが、3誌でrejectされ、4誌目のJournal of Electromyography and Kinesiology誌でようやくacceptとなった。

- 2) 「塾生の平衡機能評価」に関する研究

2005年秋から2007年秋まで、「塾生の身体機能および形態の評価」を目的に執り行われた「Nice Bodyへの道」の一環として、発表者が担当した「立位姿勢時の身体動揺」のデータについて発表した。開閉眼時に各60秒間、被検者には床反力計上において静的な立位姿勢を保持してもらい、その際に得られた足底中心動揺

を様々な指標を用いて定量評価し、超音波測定から推定された下腿三頭筋の筋量との関連性を検証した。その結果、男子学生では足底中心動揺の変位に関する指標と筋量との間に負の相関が得られたのに対し、女子学生では同様の相関が得られない、という興味深いデータが得られた。本研究内容に関しては、2008年1月に発刊となった当所の紀要において論文として発表をし、また現在は国際誌への投稿準備中である。とりわけこの内容については、男女差のメカニズム（鳥海先生より）や、縦断的なトレーニング実験の必要性（村山先生より）など、論文執筆のうえで非常に重要なご意見・ご質問を頂戴した。

3) 「脳波筋電図コヒーレンス」に関する研究

本研究テーマは理工学部生命情報学科の牛場潤一専任講師との共同研究である。静的収縮中、運動皮質近傍の脳波と筋電図との間には20Hz帯域にコヒーレンスが観察されるが、この現象には被検者間に大きな差異が存在し、その差異のメカニズムについては分かっていない。本研究では、脳波筋電図コヒーレンスの現れ方は筋間で大きく違うこと、バレリーナ・ウェイトリフターなど長期的にトレーニングを行っている者では、上肢・下肢ともにコヒーレンスが低値に収束する、という現象が明らかとなった。本研究内容については本年8月に投稿し、現在 revise 中である。

初の撮影を水球プール（水深2m）にて実施し、その後ダートフィッシュを用いて解析。研究用の撮影を競泳プール（水深1.4m）にて実施。キャリブレーション方法の説明。動作（泳ぎ）は解析中。水泳関連の先行研究の紹介。今後の課題1)より早く・簡単にできるキャリブレーション方法の検討 2)先行研究で比較的多い平泳ぎをはじめ、他の3種目の水中動作を解析していく（肘関節や膝関節の角度、キックの幅、左右差など） 3)学生の理解度を高めるため、授業においてもっと取り入れていく。

第9回 1月26日

森下 愛子

3次元水中映像フィードバックシステムの構築

平成21年度調整予算で購入していただいた水中モニターシステム（水中カメラ）等の紹介。水中カメラを用いての現在までの活動報告。

3. 大学体育指導者中央研修会報告

報告者：山内 賢、鳥海 崇
期 間：平成21年8月21日～23日
場 所：山口県山口大学吉田キャンパス、
宇部72カントリークラブ、ホテル
ニュータナカ
参加者：99名

今年度の研修会は大学体育連合中四国支部の主管で実施され、山口大学において「大学体育におけるFD活動の進め方」を題材に研修会が行われた。3日間の研修内容は以下の通りである。

1. 研修プログラム

【第1日目】

講 演 「大学体育の充実に向けて一初等・中等教育からの接続」

講 師 佐藤 豊（国立教育政策研究所）

特別講演 「大学体育に対する期待と課題」

講 師 丸本卓哉（山口大学学長）

キーノートレクチャー

「山口大学におけるFD活動の進め方」

講 師 小川 勤（山口大学）

ワークショップ

「大学体育におけるFD活動の進め方」

講 師 小林勝法（FD推進部長・文教大学）

情報交換会

【第2日目】

4コースに分かれた実技指導研修

1) ゴルフ

2) フライングディスク

3) フットサル

4) バトミントン

各コース別の分科会

【第3日目】

3コースに分かれた実技指導研修

1) ウォーキング実習

2) インドのフィジカルエクササイズ

3) フィットネストレーニング

2. 研修内容

1. 講演 「大学体育の充実に向けて一初等・中等教育からの接続」

講 師 佐藤 豊（国立教育政策研究所）

平成3年に始まった大学設置基準の大綱化以降、大学改革が進んでいる。大学全入時代における学生の多様性対応と高等教育の質保証といった課題に対して、大学体育が果たすべき役割は大きい。学習指導要領の改訂により、小中高の接続を意識した体系化、指導内容の明確化と取扱い弾力化を進んでおり、大学体育の価値を高めるためにはこれら小中高の接続を引き続き育てることが重要であろう。逆に学習指導要領の改訂でも扱っていない、多様なスポーツの価値を知る、といった役立つ体育をアピールすることも、大学改革に貢献する体育にとって必要なことである。

2. 特別講演 「大学体育に対する期待と課題」

講 師 丸本卓哉（山口大学学長）

山口大学における保健体育の変化は他の国立大学と大差はなく、設置基準の大綱化以後、必修解除、選択科目となった。しかしながら選択科目化を境に学生の体力低下やメンタルヘルスに関する相談が増加傾向にあり、教育現場でも大きな問題となってきている。近年ではまじめすぎる故に新生活に対応できず、カウンセリングを受診する新入生が多い。また、丸本氏によると、自分の人生に対する確たる信念が打ち立てられない学生が多いように感じており、自身の経験からもこの点は体育実技の履修や体育会に所属することで打開できるだろうと考えている。

3. キーノートレクチャー

「山口大学における FD 活動の進め方」

講師 小川 勤 (山口大学)

山口大学では① GP (Graduation Policy)、②カリキュラムマップ、③ Web シラバスの 3 点を通じて FD 活動を進めている。各学部がそれぞれ① GP (卒業生が身につけるべき資質) を設定し、この GP を基に②カリキュラムマップ (GP に対して各授業科目が果たすべき役割を一覧表にしたもの) を作成する。このカリキュラムマップを参照することで、どの科目を履修すれば GP のどの項目を満たすことになるかが容易に判断できるようになる。その上で各科目を履修する際、個々の授業がどのように設計されているのかを明らかにする目的で③ Web シラバスを採用している。このように GP、カリキュラムマップ、Web シラバスを三位一体として活用することで、全国的に見ても先進的な FD 活動を展開している。

4. ワークショップ

「大学体育における FD 活動の進め方」

講師 小林勝法 (FD 推進部長・文教大学)

上記山口大学における FD 活動を参考にし、6 人グループで議論した。参加者がそれぞれ事前に作成したシラバスを山口大学の Web シラバスのフォーマットに記入し、このフォーマットに従えば受講生が身につけられる資質を客観視できる点をグループ内で確認した。また、他大学の FD 活動についても情報交換を行った。

5. 実技指導研修 (2 日目)

ゴルフ (初心者)

講師 木原 徹 (日本プロゴルフ協会)

ゴルフ未経験者 8 名を対象に行われた。午前にはクラブの握り方やスイングの技術など、基礎技術の習得を目的とし、午後は各クラブの特性を理解した上でのスイング習得を目的とした。最後に初心者全員で 1 ホールを体験した。

講習内容

1) ゴルフの基礎知識

ゴルフの歴史、文化的特性、ゴルフの基本用語についての解説

2) スウィングの理解

クラブを用いた回転運動に関する物理法則と大まかなスウィングの形の理解

3) スウィング前の基本、スウィング中の基本

グリップの形、アドレスの手順、テークバック、ダウンスウィングの実習

昼食

4) ショートアイアン・ミドルアイアン

各クラブによるボールの位置・スタンス・入射角の違いの理解

5) パター

グリーン練習場において、パターを用いた実習

6) 1 ホール体験

4 人でチームを組み、スクランブル方式 (4 人のうち、ベストショットを選んで進む方式) による 1 ホール体験。

フライングディスク

講師 諸岡文男 (上智大学)

フライングディスクの講習は、歴史や投法における基本的技術について、映像による説明後に実技を行った。実技は、まずは体育館で様々な投法の技術習得、そして、屋外でディスクゴルフ、ディスタンス、アキュラシー、MTA、TRC、を行った。フライングディスクは、いつでも、どこでも、だれでも出来る気軽なスポーツであることが認識できた。

6. 実技指導研修 (3 日目)

ウォーキング実習

講師 丹 信介 (山口大学)

様々な速度でウォーキングを行い、心拍数を指標に運動強度の推定を行った。

1) 安静時における脈拍を測定し、年齢から推定される運動強度と脈拍の関連について計算した。

- 2) 毎分95mの速さで3分間歩き、直後の脈拍を測定することで、運動強度を推定した。
- 3) 同様に毎分115mの速さで3分間歩き、直後の脈拍から運動強度を推定した。

フィットネストレーニング

講師 曾根涼子(山口大学)

踏み台昇降運動を行い、心拍数を指標に運動強度の推定を行った。また、ダンベルを用いた体操も行った。

- 1) トレーニングルームの器具の説明と踏み台昇降運動を実施する利点(多くの人数が一度に実施できる)についての解説。
- 2) 安静時における脈拍を測定し、年齢から推定される運動強度と脈拍の関連について計算した。
- 3) 毎分20回のテンポで踏み台昇降運動を5分間実施し、直後の脈拍を測定することで、運動強度を推定した。
- 4) 同様に毎分35回のテンポで5分間実施し、直後の脈拍から運動強度を推定した。
- 5) シューズを履くベルトを手首にかけるなど、安全面に留意した上で、2kgのダンベルを持ち運動を行った。

7. その他

平成22年度の大学体育連合中央研修会は、関東支部の主催で、埼玉県で実施される予定。

Ⅲ. 教育活動記録

(教育委員会)

Ⅲ-1. 授業の実施

1. 平成21年度体育科目の履修者統計

1) 体育学講義と体育学演習

平成21年度は、体育学講義7コマ（前年と同数）、体育学演習7コマ（前年比+1コマ）を開講した。体育学講義のタイトル及び履修者数を表Ⅲ-1-1に、体育学演習のタイトル及び履修者数を表Ⅲ-1-2に示す。履修者数の合計は体育学講義で163名（前年とほぼ同

じ）、体育学演習で64名（前年比+1%）であった。演習は1コマ増でわずかに前年を上回る履修者となったが、講義は18年度から20年度まで続いた減少が横ばいとなった。演習は1コマ増えたが、履修者はわずかな増加に止まった。授業内容の啓蒙や告知についてさらに検討を進める必要があると考えられる。

表Ⅲ-1-1. 平成21年度 体育学講義のタイトル及び担当者

講義名	コマ数			担当教員	履修者数
	春	秋	計		
スポーツの効用を科学的にみる（スポーツ総論）	1		1	村山光義・佐々木玲子・近藤明彦・吉田泰将	10
スポーツ心理学の世界	1		1	近藤明彦	29
スポーツと身体（からだ）の基礎理論	1		1	吉田泰将	56
スポーツの技と文化を探る	1		1	植田史生・松田雅之・村山光義	24
アウトドアを考える		1	1	村山光義	7
健康と運動の科学		1	1	近藤明彦・齊藤郁夫・辻岡三南子・和井内由充子	13
現代社会とスポーツ		1	1	加藤大仁	24

表Ⅲ-1-2. 平成21年度 体育学演習のタイトル及び担当者

講義名	コマ数			担当教員	履修者数
	春	秋	計		
トレーニング演習	1		1	山内 賢	12
からだの動きをはかる（バイオメカニクス）	1		1	佐々木玲子・村山光義	4
ベーシックライフサポート（救急法の基礎）		1	1	山内 賢	12
スポーツメンタルトレーニング		1	1	近藤明彦	17
動くからだのしくみ		1	1	奥山静代・佐々木玲子	8
テニスを更に楽しもう		1	1	村松 憲	7
バドミントンを科学する		1	1	加藤幸司	4

2) 体育実技 A・B

表Ⅲ-1-3に体育実技A・B（ウィークリースポーツ）の担当者それぞれの担当種目、表Ⅲ-1-4に体育実技A・B（ウィークリースポーツ）の各種目の履修者数を示す。表Ⅲ-1-4に示すように、日吉・三田合計で6247名の申し込み（前年比-11%）に対し、

最終的に5681名の履修者（前年比-11%）となった。定員に対する充足率は、全体として74%となり、前年を10%程下回る結果であった。この理由の一つとして、平成21年度は、秋学期から半年間、記念館の耐震工事が行われ、それに伴い記念館種目が春学期のみの開講となったことがあげられる。例年、多数の

表Ⅲ-1-3. 平成21年度 体育実技A・B（ウィークリースポーツクラス）担当者及び担当種目

	担当者	種目
教 授	近藤 明彦	ウォーキングエクササイズ、ジョギング、陸上競技、体力UPコース
〃	安藤 勝英	柔道
〃	佐々木 玲子	エアロビクス
〃	植田 史生	剣道
〃	綿田 博人	野球、ゴルフ
准 教 授	松田 雅之	陸上競技、ジョギング、卓球
〃	石手 靖	バレーボール (B)
〃	村山 光義	バレーボール (A、B)、フライングディスク、ニュースポーツ (B)
〃	山内 賢	ハンドボール、体力UPコース
〃	吉田 泰将	剣道
〃	加藤 大仁	バスケットボール、体力UPコース
	板垣 悦子	アクアエクササイズ、ボディメイクエクササイズ
専 任 講 師	野口 和行	
〃	須田 芳正	サッカー、フットサル
〃	村松 憲	テニス
	鳥海 崇	水泳
専任講師(有期)	加藤 幸司	バドミントン、ニュースポーツ
〃	奥山 静代	エアロビクス
助 教(有期)	牛山 潤一	体力UPコース
〃	森下 愛子	水泳
非 常 勤 講 師	李 宇諤	サッカー
〃	岩崎 陸	サッカー
〃	大嶽 真人	フットサル
〃	織戸 晃	軟式野球
	勝部 知子	ダンス
〃	勝又 正浩	ゴルフ
〃	加藤 大雄	テニス
〃	川西 大介	アーチェリー
〃	菊地 啓太	野球
〃	木林 弥生	卓球
〃	坂井 利彰	テニス
〃	島田桂太郎	ボクシング
〃	杉本 亮子	ボディーコンディショニング (ヨガ&ピラティス)
〃	竹村りょうこ	テニス
〃	田中 知樹	バレーボール
〃	田中由美子	フェンシング
	円谷 洋一	弓術
〃	手嶋智佳子	テニス
〃	野々村芳和	サッカー
〃	横山 浩一	ソフトテニス
〃	藤平 信一	合気道
〃	堀場 雅彦	テニス
〃	松本健太郎	テニス
〃	松山 保幸	自動車
〃	山田美絵子	バレーボール

表Ⅲ-1-4. 平成21年度 体育実技A・B（ウィークリースポーツクラス）種目別履修状況

地区	科目名	コマ数			定員	登録数	倍率	最終履修者数	充足率
		春学期	秋学期	計					
日吉地区開設	アーチェリー	2	2	4	80	139	1.74	80	100%
	ウォーキングエクササイズ	2	2	4	120	39	0.33	49	41%
	エアロビクス	9	9	18	360	335	0.93	336	93%
	ゴルフ	6	6	12	240	387	1.61	258	108%
	サッカー	10	10	20	800	401	0.50	411	51%
	ジョギング	1	2	3	90	37	0.41	53	59%
	ソフトテニス	1	1	2	40	25	0.63	28	70%
	ダンス（モダンダンス）	2	2	4	80	37	0.46	53	66%
	ボディコンディショニング(ヨガ&ピラティス)	2	2	4	80	383	4.79	100	125%
	テニス	16	16	32	850	774	0.91	760	89%
	水泳	9	9	18	360	305	0.85	326	91%
	アクアエクササイズ	1	1	2	40	20	0.50	23	58%
	ニュースポーツ（A・B）	1	3	4	100	41	0.41	53	53%
	バスケットボール	9	0	9	260	325	1.25	246	95%
	バドミントン	6	0	6	180	264	1.47	189	105%
	バレーボール（A）	5	5	10	400	259	0.65	305	76%
	バレーボール（B）	7	7	14	520	199	0.38	245	47%
	ハンドボール	3	0	3	90	68	0.76	62	69%
	フェンシング	1	1	2	40	19	0.48	22	55%
	フットサル	3	3	6	150	246	1.64	153	102%
	フライングディスク（A・B）	2	2	4	100	50	0.50	59	59%
	ボクシング	2	2	4	120	104	0.87	107	89%
	剣道	7	7	14	280	55	0.20	69	25%
	合気道	1	1	2	60	61	1.02	61	102%
	自動車	2	2	4	80	122	1.53	79	99%
	柔道	3	3	6	180	47	0.26	51	28%
	体力UPコース	10	10	20	445	383	0.86	427	96%
	卓球	6	6	12	360	329	0.91	308	86%
	野球	4	4	8	240	116	0.48	130	54%
軟式野球	1	1	2	60	116	1.93	71	118%	
陸上競技	3	2	5	150	24	0.16	31	21%	
ボディメイクエクササイズ	4	4	8	160	147	0.92	161	101%	
日吉合計	141	125	266	7115	5857	0.82	5306	75%	
三田地区開設	テニス	5	5	10	132	129	0.98	111	84%
	バレーボール	2	2	4	100	77	0.77	77	77%
	弓術	2	2	4	80	71	0.89	71	89%
	剣道	2	2	4	80	23	0.29	23	29%
	合気道	1	1	2	60	71	1.18	71	118%
	柔道	2	2	4	120	19	0.16	22	18%
	三田合計	14	14	28	572	390	0.68	375	66%
全体合計	155	139	294	7687	6247	0.81	5681	74%	

履修者が集まるバスケットボール、バドミントンのコマ数が半数以下となり、700名程度の履修者減となった。総定員数から見れば、協生館のプールが完成し、水泳授業が復活したこと、ボディコンディショニング（ヨガ&ピラティス）等を新種目として開講したことで、日吉・三田合計で開講コマ数は前年度と同じ294コマ、総定員もほぼ同数となった。しかし平成19年度、20年度の2年間に150年記念事業に伴う施設利用の制約等の諸事情によるコマ数の減少と定員数の大幅な減少（2年間で1090名余り）があったことを考えると、2年間に縮小したコマ数の規模回復には至っていないのが現状である。また平成21年度は、前年度に体育実技を必修科目としていた薬学部が選択科目へ移行し、延べ400名分（200名×2）の取り込みをどれだけできるかも一つの課題であった。しかしながら、結果的には日吉の履修者が10%程度減少し、少なからずその影響が出ていることも考えら

れる。次年度には、記念館種目の復活に合せ、陸上競技場の開講種目も増加を見込み、履修者の拡大に取り組む予定である。また、新種目ボディコンディショニングは申込段階で4.8倍の超過種目となり、開講の高い効果が認められる。今後もこうした開講種目とコマ数のあり方を検討していく必要がある。

表Ⅲ-1-5に体育実技A・B（シーズンスポーツ）の各種目の担当者及び履修者数を示す。記念館耐震工事のため器械体操は開講せず、開講種目数は10種目（前年比-1種目）であった。履修者数は268名、前年比-29%で、充足率も63%（前年比-18%）と大幅に減少した。登録数を見ても倍率が1.5倍を越える人気種目は弓術のみであり、全体の倍率は前年度の0.85倍から0.61倍へと落ち込んだ。人気種目への対応とともに、ウィークリースポーツでは体験が難しい種目の魅力をどう訴えていくべきか、その実施形態も含めて今後検討していく必要がある。

表Ⅲ-1-5. 平成21年度 体育実技A・B（シーズンスポーツクラス）担当者及び履修状況

	月	科目名	担当者	定員	登録数	倍率	最終履修者数	充足率
春学期	7 8月	空手	久保田正美	40	11	0.28	18	45%
		弓術	齋藤 隆男	40	61	1.53	40	100%
		水泳（オープンウォータースイミング）	鷺見 全弘	25	7	0.28	10	40%
		馬術（B）	細田 壮一	32	35	1.09	39	122%
		山岳（B）	丸 誠一郎	20	4	0.20	3	15%
		ヨット（B）	金子 隆司	40	33	0.83	36	90%
秋学期	8 9月	アウトドアレクリエーション（B）	村山 光義	40	32	0.80	35	88%
		ビーチバレー（B）	石手 靖	30	12	0.40	14	47%
	2月	スキー（B）	吉田 久男	120	37	0.31	42	35%
		スケート（B）	小山 正	40	27	0.68	31	78%
計				427	259	0.61	268	63%

2. 授業評価の実施

体育研究所では、長年継続的に体育実技を履修した学生による授業評価を実施し、より適切な授業展開のための基礎資料を得て、授業改善に努めている。

平成21年度は履修者の意見をより詳細に把握するべく、アンケートの質問項目及び自由記述の部分を増やした。具体的には「自分はシラバスの内容に関心を持ち、この授業を履修した」、「この授業の目的・ねらいを十分理解できた」の2項目と自由記述「この授業を履修した理由・動機について」である。

また Web によるアンケート回収の試みは平成18年度秋学期から始まっており、19年度は教育委員会の教員の種目において実施した。平成20年度は専任教員の中の希望者に Web アンケートを拡大し、21年度からほとんどの専任教員が Web によるアンケート方式で実施した。なお非常勤講師・実技指導員の授業では紙による回収を実施した。

Web アンケートの回収率は、18年度は20%、19年度は春30%、秋50%、20年度は春60%、秋53%と増加傾向を示していたが、21年度は春54.4%、秋48.3%と回収率が低下した（いずれも各時限の回答率の平均値）。実施に当ってはこれまでと同様に、授業終了3週間前より入力可能とし、回答人数を毎日把握することにより、未実施者に残りの授業で実施を促した。携帯電話からの回答を促進するため QR コード票を記載した説明用紙も同時に配布した。時間の十分取れない授業時間中の紙面アンケートに比べ Web アンケート回収は、後でじっくりと考えて回答できるため、自由記述に意見を書きやすいというメリットが挙げられる。今回、回収率は低下したが、今後各教員がアンケートへの回答を促す努力を続け、Web によるアンケート実施を有効に活用していきたい。

以下、Web、紙面アンケートとも同一に扱い集計を行った。表Ⅲ-1-6、表Ⅲ-1-7に授

業評価アンケートの回答数及びアンケートの質問項目を示す。アンケートの各質問項目には、「強くそう思う」（5点）から「まったくそう思わない」（1点）までの5段階で回答させ、得点化して評価した。

表Ⅲ-1-6. アンケート回答者数

	アンケート総数
春学期ウィークリー	1670
秋学期ウィークリー	1122
春学期講義・演習	98
秋学期講義・演習	41
シーズン	161

1) 体育実技ウィークリー種目の授業評価

春学期および秋学期ウィークリー実技における各項目の全体の平均値と標準偏差を図Ⅲ-1-1, 2に示す。結果を見るとほぼ例年と同じであり以下のようにまとめられる。

春・秋の学期間には差はほとんどなく、同じ傾向が得られている。しかしながら今回新たに設定した質問項目の「自分はシラバスの内容に関心を持ち、この授業を履修した」については、他の評価項目に比べて最も平均点が低く、4点をわずかに超えるに止まった。このことは、履修においてシラバスが有効に活用されていない可能性を示すものである。履修者がシラバスを参考にしながら履修の選択をしているならば、内容に関心を持って履修するケースが多くても良いはずである。しかし、内容を十分に吟味せず、種目名の情報やイメージ、単に曜日時限による制約などで履修をしているケースがあるとも考えられる。いずれにしても、シラバスという限られた紙面でいかに授業内容に魅力を持たせ、わかりやすく伝えるかは今後の努力課題と言えよう。またもう一つの新項目「この授業の目的・ねらいを十分理解できた」は他の項目

表Ⅲ-1-7. アンケート調査用紙 (表裏)

平成21年度体育科目 (講義・演習・実技) 履修者アンケート

慶應義塾大学体育研究所

このアンケートは、FD「Faculty Development: 大学教員の資質開発 (授業内容、方法の改善・向上)」をめざして行われるものです。皆さんの意見を次年度以降の授業に反映させるとともに、今後の塾内のスポーツ振興に対して役立てる目的以外には用いませんので率直な意見をお聞かせください

- ・科目名を記入してください _____
- ・担当教員名を記入してください _____
- ・学期に○印 (春 ・ 秋)
- ・曜日時限に○印 (月・火・水・木・金) 曜、(1・2・3・4・5) 限
- ・実施地区に○印 日吉 ・ 三田

● 受講した授業についての以下の質問に関して、

5 _____ 4 _____ 3 _____ 2 _____ 1
 強く思う そう思う どちらとも言えない そう思わない 全く思わない
 の5つの中から一番当てはまる番号に○印を付けてください。

履修者全員 (講義・演習・実技) 回答

- | | |
|-------------------------------|-------------------|
| 1. 自分はシラバスの内容に関心を持ち、この授業を履修した | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 2. 教員は授業の目的および目標をわかりやすく説明した | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 3. 教員の指導・教授方法は適切であった | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 4. 教員はこの授業についての十分な知識を持っていた | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 5. 教員は授業への学生の参加を促し、適切に助言した | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 6. 教員の話し方は聞き取りやすかった | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 7. この授業は塾生にとってふさわしいものだった | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 8. この授業は自分にとって満足出来るものであった | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 9. この授業によって知識を深めることができた | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 10. この授業の目的・ねらいを十分理解できた | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 11. この授業の内容は興味のあるものだった | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 12. このクラスの雰囲気は良好であった | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 13. 自分はこの授業に意欲的に取り組んだ | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |

実技履修者のみ回答

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 14. この授業は健康や体力の向上に役立った | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 15. この授業によって運動技術が向上した | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
| 16. 運動量は適切であった | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |

講義・演習履修者のみ回答

- | | |
|---------------------------------|-------------------|
| 17. この授業では配布資料やプレゼンテーションが適切であった | 5 — 4 — 3 — 2 — 1 |
|---------------------------------|-------------------|

裏面へ続きます

●自由記述 1

この授業を履修した理由・動機について

●自由記述 2

授業内容について

よかったこと：

改善を要すること：

●自由記述 3

教員について

よかったこと：

改善を要すること：

●自由記述 4

施設および機器・用具等について

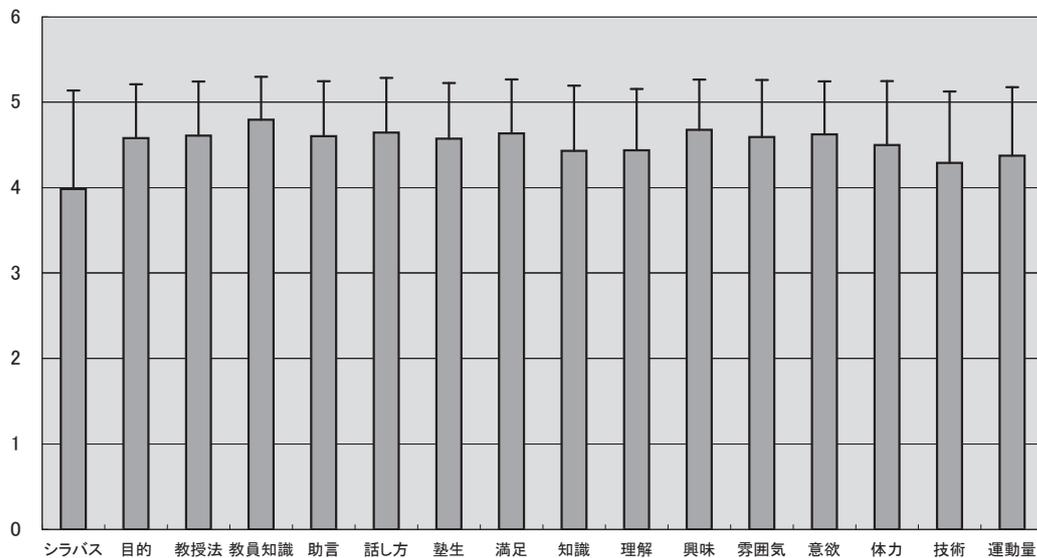
よかったこと：

改善を要すること：

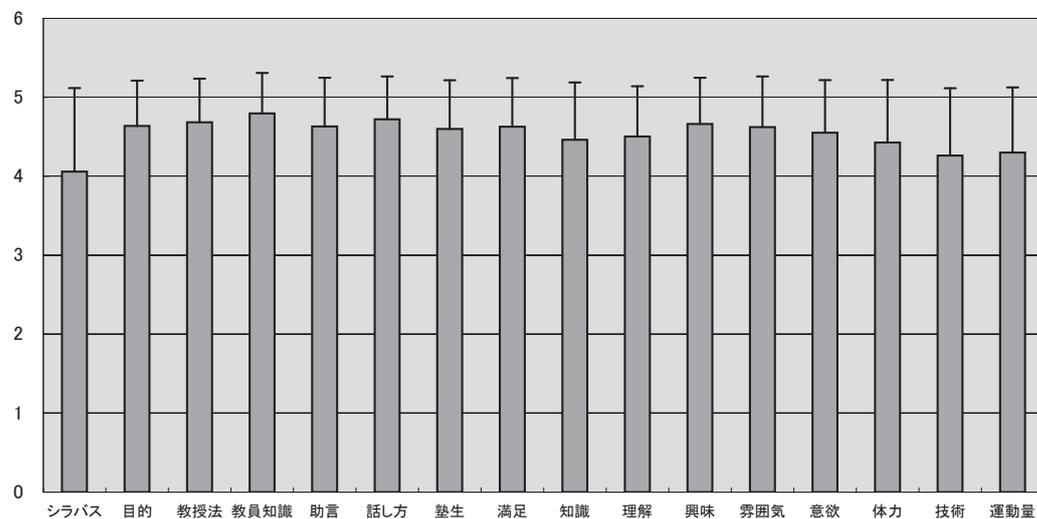
●自由記述 5

体育科目全般に関する意見および提案

ご協力ありがとうございました。



図Ⅲ-1-1. 授業に関する質問項目別の5段階評価（春学期ウィークリー全体平均）



図Ⅲ-1-2. 授業に関する質問項目別の5段階評価（秋学期ウィークリー全体平均）

同様、4点以上の高い肯定的評価であった。平均値で最も高い評価となったものは、「教員はこの授業についての十分な知識を持っていた」であり、目的の説明や話し方、教授法の適切さ等の教員に対する評価項目が高い得点であった。「この授業によって運動技術が向上した」、「この授業によって知識を深めることができた」「運動量は適切であった」といった項目は全体の中では比較的低い評価であった。

表Ⅲ-1-8,9には各項目の種目別の集計を春学期、秋学期別に示した。こちらも同様に、例年と同じ傾向が見られた。すなわち、全体

の評価からは、「シラバスの内容への関心」「運動技術が向上」「運動量の適切さ」などの得点が低かった。特に「シラバスの内容への関心」については、アーチェリー、卓球、バスケットボール、バドミントン、バレーボール、フットサル、野球、陸上競技、ボクシングなどが3点台の低い評価となっていた。「運動量の適切さ」は、種目特性と履修者の運動欲求とのズレが評価の低さに現れることがある。そのことを踏まえた上で、教員が種目特性を理解させながら、いかに履修者の運動欲求を満たしていくかが課題になるだろう。

表Ⅲ-1-8. 種目別の5段階評価集計一覧(春学期ウィークリー)

種目名	人数		シラバス	目的	教授法	教員知識	助言	話し方	塾生	満足	知識	理解	興味	雰囲気	意欲	体力	技術	運動量	
アーチェリー	38	平均	3.7	4.6	4.8	5.0	4.7	4.7	4.6	4.7	4.5	4.4	4.7	4.6	4.7	3.8	3.9	3.9	
		標準偏差	1.3	0.6	0.5	0.2	0.5	0.5	0.6	0.5	0.7	0.8	0.6	0.6	0.6	0.4	0.8	0.8	0.9
アクアエクササイズ	2	平均	5.0	5.0	5.0	4.5	5.0	5.0	4.5	5.0	3.5	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	3.0	4.5
		標準偏差	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7
合気道	46	平均	4.6	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.7	4.8	4.9	4.8	4.5	4.4	4.5	
		標準偏差	0.7	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	0.5	0.4	0.5	0.6	0.4	0.3	0.5	0.7	0.7	0.6	
ウォーキングエクササイズ	19	平均	4.3	4.6	4.6	4.7	4.6	4.5	4.4	4.7	4.4	4.4	4.5	4.5	4.7	4.4	3.8	4.4	
		標準偏差	0.9	0.6	0.6	0.8	0.6	0.6	0.7	0.6	0.7	0.5	0.6	0.6	0.5	0.5	0.7	0.6	
エアロビクス	79	平均	4.0	4.8	4.8	4.7	4.7	4.8	4.7	4.7	4.3	4.5	4.8	4.7	4.6	4.6	4.1	4.4	
		標準偏差	0.9	0.6	0.6	0.7	0.6	0.6	0.6	0.7	0.7	0.7	0.6	0.7	0.6	0.7	0.9	0.7	
弓術	31	平均	4.5	4.8	4.9	4.8	4.9	4.9	4.8	4.9	4.8	4.7	4.8	4.9	4.7	4.8	4.3	4.2	4.2
		標準偏差	0.8	0.4	0.3	0.7	0.3	0.3	0.5	0.3	0.5	0.6	0.3	0.5	0.4	0.7	0.9	0.9	
剣道	27	平均	4.1	4.7	4.8	5.0	4.6	4.9	4.7	4.7	4.6	4.3	4.6	4.6	4.4	4.4	4.4	4.4	
		標準偏差	1.0	0.4	0.4	0.0	0.5	0.4	0.6	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7	0.6	0.6	
ゴルフ	61	平均	4.0	4.6	4.5	4.8	4.4	4.7	4.6	4.7	4.5	4.4	4.7	4.4	4.7	4.2	4.4	4.3	
		標準偏差	1.2	0.6	0.7	0.5	0.9	0.4	0.7	0.6	0.7	0.8	0.6	0.8	0.6	0.8	0.8	0.8	
サッカー	133	平均	3.7	4.2	4.3	4.6	4.2	4.4	4.4	4.6	4.5	4.4	4.8	4.6	4.5	4.6	4.3	4.5	
		標準偏差	1.2	0.7	0.6	0.5	0.7	0.6	0.6	0.6	0.8	0.7	0.6	0.5	0.6	0.5	0.8	0.6	
自動車	31	平均	4.5	4.5	4.4	4.8	4.4	4.3	4.6	4.4	4.6	4.5	4.6	4.1	4.6	3.5	4.2	3.5	
		標準偏差	0.9	0.7	0.8	0.4	0.7	0.8	0.6	0.8	0.6	0.7	0.7	1.0	0.7	1.3	1.1	1.1	
柔道	29	平均	3.9	4.7	4.9	5.0	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.7	4.9	4.9	4.7	4.9	4.8	4.6	
		標準偏差	1.5	0.5	0.4	0.0	0.4	0.4	0.4	0.5	0.6	0.6	0.4	0.3	0.7	0.3	0.5	0.6	
ジョギング	11	平均	4.1	4.3	4.5	4.8	4.4	4.6	4.1	4.4	3.9	3.8	4.4	4.8	4.4	4.4	3.8	4.0	
		標準偏差	1.2	0.9	0.5	0.4	0.7	0.5	0.7	0.5	0.7	0.9	0.7	0.4	0.7	0.7	0.9	0.6	
水泳	40	平均	4.0	4.5	4.4	4.7	4.6	4.6	4.5	4.7	4.3	4.3	4.5	4.6	4.6	4.8	4.4	4.3	
		標準偏差	1.0	0.6	0.9	0.7	0.6	0.6	0.6	0.5	0.8	0.9	0.7	0.7	0.5	0.5	0.7	0.8	
ソフトテニス	0	平均																	
		標準偏差																	
体力UPコース	114	平均	4.0	4.7	4.6	4.8	4.6	4.6	4.4	4.5	4.4	4.4	4.6	4.3	4.3	4.6	4.1	4.3	
		標準偏差	0.9	0.5	0.6	0.4	0.6	0.5	0.7	0.6	0.7	0.7	0.6	0.8	0.7	0.6	0.8	0.7	
卓球	93	平均	3.7	4.4	4.5	4.7	4.5	4.4	4.4	4.4	4.3	4.2	4.6	4.5	4.5	4.2	4.1	4.2	
		標準偏差	1.2	0.7	0.7	0.5	0.7	0.8	0.7	0.8	0.9	0.8	0.7	0.7	0.7	0.9	1.0	1.0	
ダンス	21	平均	3.5	4.0	4.4	4.8	4.6	4.7	4.0	4.0	4.2	4.0	3.9	4.6	4.3	3.8	3.5	3.8	
		標準偏差	1.2	0.8	0.7	0.5	0.6	0.6	0.7	0.7	0.9	1.0	1.0	0.6	1.0	0.9	0.8	1.0	
テニス	247	平均	4.1	4.5	4.6	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.5	4.4	4.7	4.6	4.7	4.7	4.5	4.5	
		標準偏差	1.2	0.7	0.8	0.6	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.6	0.8	0.6	0.6	0.8	0.9	
軟式野球	28	平均	3.8	4.4	4.3	4.7	4.3	4.3	4.4	4.2	4.1	4.5	4.6	4.5	4.6	4.4	4.0	4.1	
		標準偏差	1.4	0.7	0.9	0.5	0.8	0.8	0.7	1.0	0.9	0.6	0.7	0.7	0.6	0.7	1.1	1.0	
ニュースポーツ	9	平均	3.4	4.2	4.6	4.7	4.7	4.9	4.4	4.7	4.7	4.1	4.6	4.7	4.2	3.9	3.7	3.9	
		標準偏差	1.2	0.8	0.5	0.5	0.5	0.3	0.7	0.5	0.5	0.6	0.5	0.5	0.8	1.3	0.7	0.8	
バスケットボール	125	平均	3.9	4.7	4.6	4.9	4.7	4.4	4.6	4.8	4.4	4.6	4.8	4.7	4.7	4.9	4.6	4.6	
		標準偏差	1.1	0.5	0.6	0.4	0.5	0.9	0.6	0.4	0.7	0.5	0.4	0.6	0.5	0.4	0.5	0.6	
バドミントン	74	平均	3.6	4.5	4.5	4.9	4.3	4.4	4.4	4.5	4.4	4.2	4.6	4.4	4.6	4.4	4.3	4.3	
		標準偏差	1.0	0.6	0.6	0.5	0.8	0.7	0.7	0.7	0.8	0.8	0.5	0.8	0.6	0.8	0.7	0.7	
バレーボール	197	平均	3.6	4.5	4.6	4.7	4.7	4.8	4.6	4.7	4.3	4.4	4.7	4.7	4.7	4.4	4.2	4.4	
		標準偏差	1.3	0.6	0.6	0.6	0.5	0.4	0.6	0.6	0.9	0.8	0.6	0.6	0.6	0.8	1.0	0.8	
ハンドボール	28	平均	4.0	4.8	4.7	5.0	4.6	4.8	4.7	4.8	4.4	4.6	4.9	4.9	4.8	4.8	4.5	4.6	
		標準偏差	1.3	0.4	0.5	0.2	0.5	0.4	0.5	0.4	0.6	0.6	0.3	0.3	0.4	0.5	0.6	0.5	
フェンシング	7	平均	4.3	4.9	4.9	5.0	4.7	4.6	5.0	4.9	4.0	4.6	4.9	5.0	5.0	4.6	4.3	4.9	
		標準偏差	1.5	0.4	0.4	0.0	0.8	1.1	0.0	0.4	1.7	0.5	0.4	0.0	0.0	1.1	1.3	0.4	
フットサル	55	平均	4.0	4.5	4.5	4.7	4.6	4.7	4.7	4.7	4.4	4.4	4.6	4.6	4.6	4.6	4.4	4.4	
		標準偏差	1.2	0.7	0.7	0.5	0.6	0.6	0.5	0.5	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.5	0.7	0.7	
フライングディスク	11	平均	4.1	4.6	4.8	4.7	4.6	4.5	4.3	4.7	4.3	4.5	4.6	4.5	4.5	4.5	4.2	4.5	
		標準偏差	0.5	0.5	0.4	0.6	0.5	0.7	0.8	0.5	0.7	0.5	0.7	0.7	0.5	0.8	0.8	0.7	
ボクシング	20	平均	3.9	4.7	4.7	4.9	4.6	4.9	4.7	4.7	4.7	4.5	4.8	4.5	4.4	4.7	4.6	4.7	
		標準偏差	1.5	0.5	0.7	0.3	0.8	0.4	0.5	0.6	0.7	0.7	0.4	0.8	0.8	0.6	0.7	0.6	
ボディコンディショニング	42	平均	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.9	4.7	4.8	4.5	4.6	4.9	4.7	4.7	4.4	3.8	4.4	
		標準偏差	0.5	0.5	0.4	0.6	0.5	0.3	0.6	0.5	0.6	0.7	0.4	0.4	0.5	0.7	1.0	0.8	
ボディメイクエクササイズ	11	平均	4.7	4.9	5.0	5.0	4.9	5.0	4.9	4.9	4.3	4.6	4.9	4.7	4.9	4.7	4.5	4.8	
		標準偏差	0.5	0.3	0.0	0.0	0.3	0.0	0.3	0.3	0.6	0.7	0.3	0.5	0.3	0.5	0.7	0.4	
野球	30	平均	3.9	4.5	4.6	4.8	4.4	4.6	4.5	4.6	4.5	4.3	4.7	4.5	4.5	4.1	4.1	3.9	
		標準偏差	1.2	0.7	0.5	0.4	0.7	0.5	0.6	0.5	0.6	0.7	0.5	0.7	0.7	0.8	0.8	0.9	
陸上競技	11	平均	3.9	4.6	4.5	4.7	4.7	4.6	4.6	4.5	4.6	4.5	4.5	4.6	4.3	4.4	4.5	4.1	
		標準偏差	1.0	0.5	0.5	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.7	0.7	0.7	0.9	0.5	0.9	0.8	0.5	

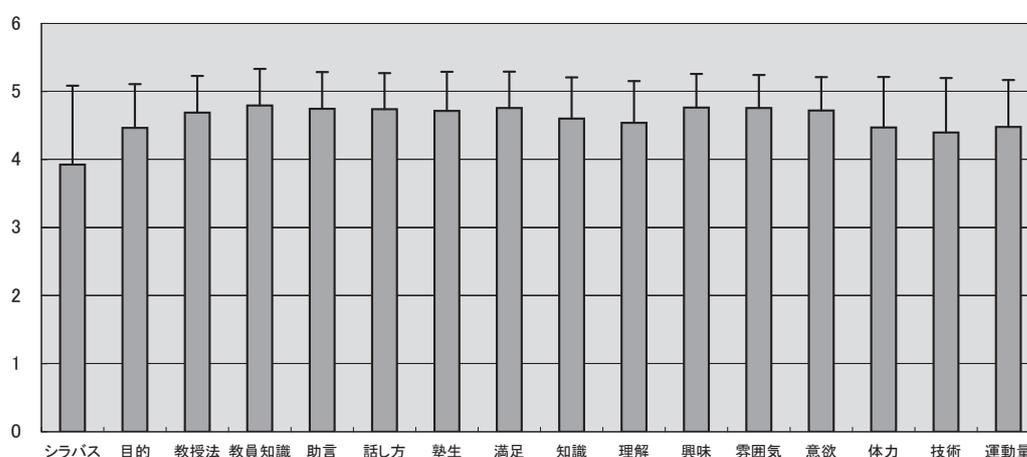
表Ⅲ-1-9. 種目別の5段階評価集計一覧（秋学期ウィークリー）

種目名	人数		シラバス	目的	教授法	教員知識	助言	話し方	塾生	満足	知識	理解	興味	雰囲気	意欲	体力	技術	運動量
アーチェリー	25	平均	3.8	4.7	4.9	5.0	4.6	4.9	4.8	4.7	4.5	4.5	5.0	5.0	4.8	4.0	4.2	4.1
		標準偏差	1.2	0.6	0.3	0.0	0.5	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.2	0.0	0.4	0.8	0.8	0.6
アクアエクササイズ	4	平均	4.8	4.3	4.0	4.3	3.8	4.5	4.5	4.3	3.5	4.3	4.3	4.8	3.5	3.8	3.3	3.8
		標準偏差	0.5	0.5	0.8	0.5	1.0	0.6	0.6	1.0	0.6	1.0	0.5	0.5	0.6	1.0	0.5	1.3
合気道	34	平均	4.6	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.8	4.7	4.8	4.9	4.9	4.6	4.3	4.3	4.3
		標準偏差	0.8	0.2	0.3	0.5	0.4	0.2	0.6	0.4	0.5	0.4	0.3	0.3	0.6	0.8	0.9	1.0
ウォーキングエクササイズ	22	平均	4.1	4.4	4.2	4.4	4.5	4.6	4.4	4.5	4.2	4.3	4.5	4.7	4.6	4.5	3.8	4.2
		標準偏差	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7	0.5	0.7	0.7	0.8	0.6	0.5	0.5	0.6	0.5	0.8	0.7
エアロビクス	70	平均	4.1	4.8	4.8	4.8	4.6	4.8	4.7	4.7	4.3	4.6	4.7	4.6	4.6	4.5	3.9	4.3
		標準偏差	0.9	0.4	0.4	0.4	0.7	0.4	0.5	0.5	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7	0.8	0.7
弓術	15	平均	4.7	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.9	4.9	4.8	4.3	4.6	4.6
		標準偏差	0.6	0.4	0.3	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.6	0.6	0.4	0.4	0.4	0.8	0.6	0.5
剣道	20	平均	4.2	4.6	4.7	5.0	4.7	4.8	4.6	4.7	4.7	4.5	4.8	4.7	4.4	4.2	4.2	4.4
		標準偏差	0.7	0.5	0.6	0.0	0.5	0.4	0.6	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6	0.7	0.7	0.7	0.5
ゴルフ	61	平均	4.1	4.7	4.7	4.8	4.5	4.8	4.8	4.7	4.5	4.5	4.9	4.6	4.5	4.2	4.4	4.3
		標準偏差	1.0	0.5	0.5	0.5	0.7	0.5	0.5	0.5	0.7	0.7	0.3	0.7	0.7	0.9	0.7	0.9
サッカー	85	平均	4.2	4.8	4.7	4.9	4.8	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.7	4.6	4.7	4.7	4.6	4.5
		標準偏差	1.0	0.5	0.5	0.4	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.7	0.7
自動車	19	平均	4.2	4.8	4.8	5.0	4.8	4.6	4.5	4.6	4.6	4.4	4.6	4.2	4.4	3.1	3.9	3.4
		標準偏差	0.9	0.4	0.4	0.0	0.4	0.8	0.5	0.6	0.7	0.7	0.6	1.0	0.7	1.2	1.1	1.1
柔道	19	平均	4.2	4.8	4.8	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.8	4.7	4.8	4.8	4.5	4.7	4.7	4.7
		標準偏差	1.3	0.4	0.4	0.9	0.6	0.5	0.5	0.5	0.4	0.7	0.4	0.4	0.8	0.6	0.6	0.7
ジョギング	10	平均	3.8	4.1	4.2	4.6	4.2	4.5	4.2	4.5	3.8	4.2	4.4	4.7	4.5	4.4	4.2	4.2
		標準偏差	1.3	0.6	0.4	0.7	0.4	0.5	0.8	0.5	0.9	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6	0.8
水泳	74	平均	4.3	4.6	4.5	4.7	4.6	4.8	4.6	4.8	4.4	4.5	4.7	4.8	4.6	4.7	4.4	4.5
		標準偏差	0.8	0.6	0.6	0.7	0.6	0.5	0.6	0.5	0.7	0.6	0.5	0.4	0.6	0.5	0.8	0.7
ソフトテニス	0	平均																
体力UPコース	124	平均	4.0	4.8	4.7	4.8	4.6	4.7	4.5	4.6	4.5	4.5	4.5	4.4	4.4	4.6	4.0	4.2
		標準偏差	0.9	0.4	0.5	0.5	0.6	0.5	0.6	0.6	0.7	0.6	0.6	0.8	0.7	0.5	0.8	0.7
卓球	98	平均	3.7	4.5	4.5	4.7	4.6	4.4	4.3	4.4	4.2	4.4	4.5	4.6	4.5	4.2	4.2	4.2
		標準偏差	1.3	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7	0.8	0.8	0.9	0.8	0.8	0.7	0.7	1.0	0.9	0.9
ダンス	14	平均	4.1	4.4	4.6	4.9	4.7	4.8	4.4	4.4	4.6	4.4	4.3	4.6	4.3	4.0	3.9	4.0
		標準偏差	0.9	0.6	0.5	0.3	0.5	0.4	0.5	0.8	0.6	0.7	0.9	0.6	0.7	0.9	0.9	0.8
テニス	151	平均	3.8	4.5	4.7	4.8	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.5	4.7	4.6	4.7	4.6	4.6	4.5
		標準偏差	1.2	0.7	0.7	0.5	0.7	0.6	0.6	0.7	0.8	0.7	0.6	0.7	0.6	0.7	0.8	0.8
軟式野球	19	平均	4.3	4.6	4.4	4.7	4.2	4.3	4.4	4.4	4.4	4.5	4.6	4.6	4.5	4.2	3.9	4.1
		標準偏差	1.0	0.5	0.6	0.5	0.8	0.8	0.6	0.6	0.7	0.6	0.5	0.6	0.5	0.9	0.9	0.9
ニュースポーツ	20	平均	4.2	4.7	4.7	4.4	4.7	4.7	4.3	4.6	4.4	4.3	4.6	4.8	4.5	3.6	3.5	3.7
		標準偏差	0.8	0.6	0.5	0.8	0.6	0.5	0.8	0.6	0.5	0.7	0.6	0.4	0.9	1.1	1.1	1.1
バレーボール	141	平均	3.8	4.5	4.7	4.8	4.7	4.8	4.7	4.7	4.5	4.5	4.6	4.7	4.5	4.5	4.4	4.4
		標準偏差	1.2	0.7	0.6	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6	0.7	0.7	0.6	0.6	0.7	0.8	0.8	0.8
フェンシング	9	平均	4.1	4.0	4.3	4.6	4.2	4.3	4.3	4.4	4.4	4.2	4.6	4.3	4.7	4.6	4.3	4.4
		標準偏差	0.6	0.7	0.5	0.7	1.0	0.9	0.7	0.7	0.7	0.7	0.5	0.7	0.5	0.7	0.7	0.5
フットサル	6	平均	3.3	5.0	4.7	5.0	5.0	5.0	4.8	5.0	4.7	4.5	5.0	4.7	4.5	4.8	4.8	4.2
		標準偏差	0.8	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.5	0.5	0.0	0.5	0.5	0.4	0.4	0.8
フライングディスク	9	平均	3.9	4.8	5.0	5.0	4.2	4.7	4.4	4.4	4.3	4.2	4.8	4.7	4.6	4.1	4.2	4.2
		標準偏差	0.8	0.5	0.0	0.0	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.7	0.5	0.5	0.6	0.7	0.4
ボクシング	0	平均																
ボディコンディショニング	39	平均	4.8	4.8	4.9	4.9	4.8	5.0	4.9	4.8	4.5	4.7	4.8	4.7	4.6	4.3	3.9	4.3
		標準偏差	0.5	0.4	0.2	0.2	0.6	0.0	0.3	0.6	0.7	0.5	0.4	0.7	0.6	0.7	0.9	0.8
ボディメイクエクササイズ	15	平均	4.5	4.9	4.6	4.8	4.6	4.9	4.5	4.5	4.2	4.6	4.5	4.1	4.4	4.5	3.9	4.3
		標準偏差	0.5	0.4	0.8	0.6	0.5	0.3	0.5	0.6	0.6	0.5	0.5	0.9	0.8	0.7	1.0	0.8
野球	16	平均	4.2	4.6	4.8	4.9	4.6	4.9	4.5	4.4	4.6	4.6	4.8	4.6	4.6	4.3	4.4	3.9
		標準偏差	1.0	0.5	0.4	0.3	0.6	0.4	0.7	0.9	0.6	0.5	0.6	0.7	0.5	0.9	0.9	1.3
陸上競技	3	平均	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	4.7	5.0	5.0	5.0	4.7	5.0	5.0	4.3	5.0	5.0	4.3
		標準偏差	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.6

2) シーズンスポーツ種目の授業評価

シーズンスポーツ種目における各項目の全体の平均値と標準偏差を図Ⅲ-1-3に示す。シーズンスポーツにおいても「自分はシラバスの内容に関心を持ち、この授業を履修した」項目の評価が低く、3点台であった。その他の項目はすべて平均値で4点をこえる肯定的評価が得られている。また、評価の高い項目の「教員はこの授業についての十分な知識を

持っていた」、課題となる「運動量は適切であった」「この授業によって運動技術が向上した」の特徴もウィークリーに類似し、平成19年度からの3年間、同様の傾向となった。また、表Ⅲ-1-10には各項目の種目別の集計を示した。こちらも「シラバスの内容への関心」の項目で、空手、馬術、スケートで3点台の低い評価であった。その他の項目はほぼ例年同様の結果となった。



図Ⅲ-1-3. 授業に関する質問項目別の5段階評価 (シーズンスポーツ全体平均)

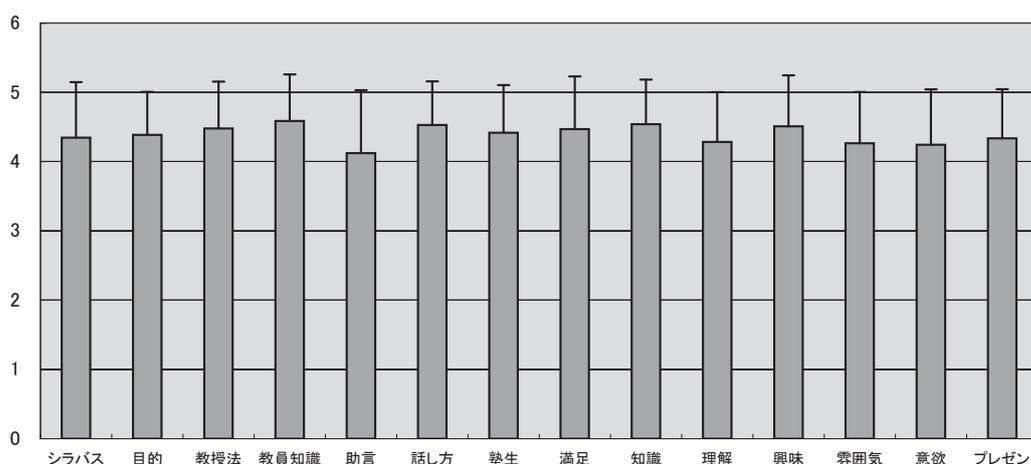
表Ⅲ-1-10. 種目別の5段階評価集計一覧 (シーズンスポーツ)

種目名	人数		シラバス	目的	教授法	教員知識	助言	話し方	塾生	満足	知識	理解	興味	雰囲気	意欲	体力	技術	運動量
空手	12	平均	3.5	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	4.5	4.5	4.7	4.8	4.7	4.7	4.2	4.3
		標準偏差	1.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.5	0.7	0.8	0.7	0.4	0.5	0.7	1.1	0.5
弓術	24	平均	4.1	4.8	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.9	4.6	4.8	4.9	4.8	4.8	4.5	4.6	4.5
		標準偏差	1.1	0.5	0.3	0.3	0.3	0.4	0.4	0.3	0.6	0.4	0.3	0.4	0.4	0.4	0.8	0.6
水泳	5	平均	4.2	4.4	4.6	4.8	4.6	4.8	4.2	4.6	4.6	4.6	4.6	4.0	4.6	4.6	4.8	4.2
		標準偏差	0.8	0.5	0.5	0.4	0.5	0.4	0.8	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.0	0.5	0.5	0.4
山岳	2	平均	4.0	4.0	5.0	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	4.5	4.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	4.5
		標準偏差	1.4	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	0.7	0.7
馬術	29	平均	3.8	4.5	4.8	4.9	4.8	4.9	4.9	4.8	4.9	4.6	5.0	4.9	4.8	4.5	4.5	4.5
		標準偏差	1.3	0.6	0.4	0.3	0.5	0.3	0.4	0.7	0.4	0.6	0.2	0.3	0.4	0.7	0.7	0.7
ヨット	20	平均	4.0	4.6	4.8	4.8	4.8	4.8	5.0	4.9	4.8	4.6	4.8	4.8	4.8	4.6	4.5	4.7
		標準偏差	1.1	0.6	0.4	0.6	0.4	0.4	0.2	0.3	0.6	0.7	0.6	0.6	0.6	0.4	0.7	0.6
ビーチバレー	6	平均	4.0	4.3	4.7	4.3	4.7	4.7	4.7	4.8	4.7	4.5	4.8	5.0	4.7	4.7	4.5	4.2
		標準偏差	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.5	0.5	0.4	0.0	0.5	0.5	0.5	0.8
アウトドアレクリエーション	19	平均	4.3	4.4	4.4	4.7	4.5	4.5	4.4	4.6	4.4	4.4	4.6	4.7	4.5	4.2	3.8	4.4
		標準偏差	0.9	0.5	0.8	0.7	0.9	0.8	1.0	0.8	0.8	0.7	0.8	0.5	0.8	0.9	1.1	0.8
スケート	19	平均	3.2	4.1	4.5	4.4	4.6	4.6	4.8	4.8	4.3	4.4	4.7	4.8	4.7	4.4	4.3	4.4
		標準偏差	1.4	0.8	0.7	1.0	0.6	0.7	0.4	0.4	0.8	0.7	0.5	0.4	0.5	0.8	0.9	0.8
スキー	25	平均	4.2	4.2	4.6	4.9	4.8	4.7	4.5	4.6	4.6	4.6	4.6	4.5	4.7	4.4	4.5	4.6
		標準偏差	1.0	0.7	0.5	0.3	0.5	0.5	0.7	0.6	0.5	0.6	0.5	0.7	0.5	0.8	0.6	0.6

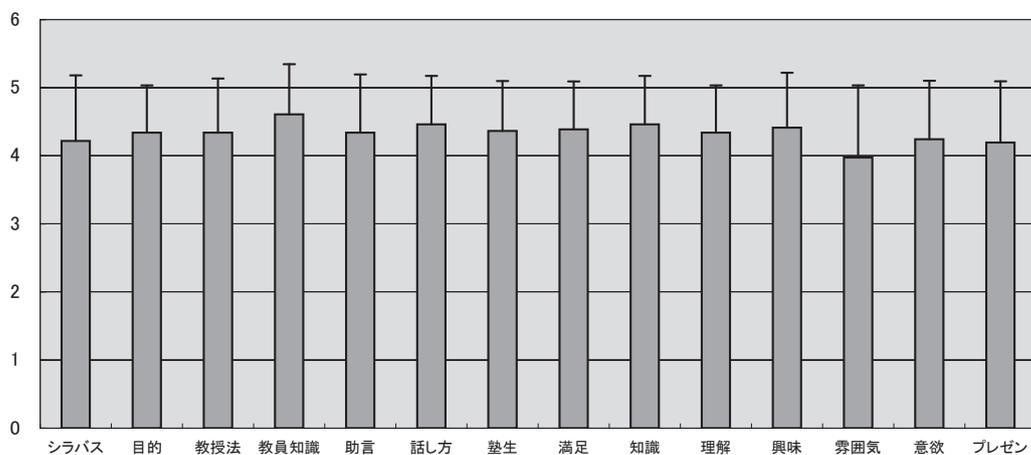
3) 講義・演習科目の授業評価

講義・演習科目の授業評価について春学期、秋学期別に集計した結果を図Ⅲ-1-4,5に示す。平成20年度は、春学期がおおむね高い評価を得ているのに対し、秋学期では評価が低い項目が多かった。しかし今年度は春・秋学期間でそれほど大きな差は見られなかった。今年度は「自分はシラバスの内容に関心を持ち、この授業を履修した」という項目が加わり、前述した通り、ウィークリー及びシーズンスポーツ種目では低い評価点であった。しかし講義・演習科目では4点台で体育科目としては平均的な評価であった。このことは、講義・演習の履修においては実技よりも授業の内容が履修を決定する要因になりやすいと

いうことを意味しているであろう。従って、より魅力的なシラバスにしていくことが、講義・演習の履修者拡大に重要と考えられる。また、春学期の「教員は授業への学生の参加を促し、適切に助言した」、秋学期の「このクラスの雰囲気は良好であった」が項目全体の中ではより低い評価であった。一方で「教員の知識」、「教員の話し方」、「知識を深める」、「授業内容への興味」などが例年通り高い評価を得ていた。講義は演習に比べ、どうしても教員からの一方向的な教授になりがちであるが、履修者数から見た授業規模は比較的小さく、この点に関しては今後改善のための努力が必要であろう。



図Ⅲ-1-4. 授業に関する質問項目別の5段階評価（春学期講義・演習の全体平均）



図Ⅲ-1-5. 授業に関する質問項目別の5段階評価（秋学期講義・演習の全体平均）

3. 通信教育部対象の科目

1) 体育理論

通信教育課程の体育理論は平成20年度に引き続き、テキスト科目のレポート並びに試験問題の出題・採点を佐々木玲子君、村山光義君、村松憲君で担当した。また、夏期スクーリング（平成21年7月31日（金）から8月7日（金）の日曜を除く7日間）においても保健体育科目として体育理論・保健衛生をオムニバス形式で実施した。体育理論はテキスト科目出題と同様の3名で担当した。スクーリングでの各教員のテーマを表Ⅲ-1-11に示す。

2) 体育実技

夏期・冬期スクーリングにおいて体育実技を開講した。夏期は、平成21年7月31日（金）から8月7日（金）の日曜を除く7日間、14種目を日吉キャンパスにて午前中の1-2時限（2時間15分間）実施した。今年度から協生館プールを使用して水泳を開講した。またこれまで夏期に行っていたウォーキングエク

ササイズを秋期に移し、平成21年10月9日（金）から12日（月）までの3泊4日で、協生館を宿泊場所とした合宿形式で実施した。これは、夏期の高温条件での実技実施を改善する目的と通信教育部生への新たな教育プログラム実施の模索の中で移行されたもので、講義と実技の組み合わせでデザインされたものである。特に実技では、陸上競技場や日吉周辺のみならず、慶應義塾発祥の地から三田、さらに日吉までと変化に富んだエクササイズを設定して実施された。幸い、全国から履修の希望があり、申込段階では定員を超過し調整する結果となった。今後も継続をするとともに、さらに新たな他のプログラム・種目を検討していく必要があると考えられる。

続いて、冬期には平成22年2月11日（木）から14日（日）までの3泊4日でスキーを戸狩温泉スキー場で実施した。各担当者及び履修者数を表Ⅲ-1-12に示す。

表Ⅲ-1-11. 平成21年度通信教育部講義開講科目および担当者一覧

	担当者	テ ー マ
保 健 衛 生	齊 藤 郁 夫	高血圧
	河 邊 博 史	糖尿病
	和井内 由充子	虚血性心疾患
	辻 岡 三南子	医学とスポーツ
	徳 村 光 昭	子どもの生活習慣
	南 里 清一郎	エイズ
体 育 理 論	佐々木 玲 子	人の成長と加齢に伴う身体機能の変化
	村 山 光 義	スポーツと人間の関係及びその教育的意義
	村 松 憲	身体のしくみ・運動のしくみ・トレーニングのしくみ

表Ⅲ-1-12. 平成21年度通信教育部体育実技スクーリング開講種目および担当者一覧

	種 目 名	担当者	定 員	履修者数	充足率
夏 期	エアロビクス	佐々木玲子	20	16	80.0%
	剣道	吉田 泰将	20	8	40.0%
	ゴルフ	勝又 正浩	20	19	95.0%
	柔道	安藤 勝英	20	1	5.0%
	ソフトボール	綿田 博人	20	16	80.0%
	体力アップコース	山内 賢	25	24	96.0%
	卓球	松田 雅之	30	6	20.0%
	バスケットボール	加藤 大仁	40	22	55.0%
	バドミントン	加藤 幸司	40	30	75.0%
	テニス	村松 憲	20	18	90.0%
	太極拳	孔 徳勝	20	18	90.0%
	バレーボール	石手 靖	30	14	46.7%
	レクリエーションスポーツ	板垣 悦子	25	19	76.0%
	水泳	鳥海 崇	30	24	80.0%
秋期	ウォーキングエクササイズ	近藤 明彦	30	26	86.7%
冬期	スキー	水野 英夫	70	33	47.1%
	合 計		460	294	63.9%

4. 他学部および塾内における授業協力

体育研究所所員は、日吉・三田において開講される体育研究所設置の体育科目および通信教育部のテキスト科目・スクーリング科目に加え、各学部・センターの設置科

目や一貫教育校の授業についても協力をしている。平成21年度の協力科目および担当者を表Ⅲ-1-13に示す。今後こうした塾内における共同参画型の授業を発展させたいと考える。

表Ⅲ-1-13. 塾内における授業担当および協力

授 業 科 目 名	担 当 者	開講学部など	曜日時限など
スポーツ科学	佐々木玲子、板垣悦子、加藤幸司	薬学部	春学期木曜 1、2 時限
健康科学	板垣悦子	薬学部	春学期金曜 3 時限
体育Ⅰ、体育Ⅱ・Ⅲ	牛山潤一	総合政策学部 環境情報学部	金曜 3、4、5 時限
体育Ⅱ・Ⅲ	鳥海 崇	総合政策学部 環境情報学部	水、木、金曜 3 時限
薬学的保健体験学習	板垣悦子	薬学部	秋学期火曜 1、3 時限
人体の科学	佐々木玲子、村山光義	理工学部	秋学期水曜 5 時限

Ⅲ-2 スポーツイベントの開催

1. 塾長杯・塾内競技大会

1) 第11回塾長杯バレーボール大会

1. 開催日：平成21年6月27日（土）
2. 会 場：日吉記念館
3. 開催時間：9:30～19:30
4. 参加チーム数：43チーム（チャンピオンリーグ15、エンジョイリーグ28）
5. 参加者数：約510名（チャンピオンリーグ約130名、エンジョイリーグ約280名、観客約100名）
6. ゲーム数：52ゲーム

予選リーグ41試合 / 決勝トーナメント11試合

7. 協 力：大会実行学生スタッフ / 放送研究会（K-Sound） / チア&ソングリーダーズユニコーンズ / 大塚製薬（株）

8. 表彰チーム

チャンピオンリーグ

優勝：エイリアン竹内 says そ〜い

2位：ゴールドマンセックス

エンジョイリーグ

優勝：ふたりネッチ

2位：KV Fujio

9. コメント：日吉記念館の工事の影響で例年より早い時期に催したこの大会には、チャンピオンリーグ15、エンジョイリーグ28の計43チームが参加した。塾内のバレーボールサークルのメンバーが多数参加したチャンピオンリーグは、4、4、4、3チーム計4ブロックに分かれてリーグ戦を行い、各グループの1位44チームによる決勝トーナメント戦で順位を競った。その順位付けに基づき決勝リーグ進出トーナメントを行い、決勝リーグを行った。また、エンジョイリーグは例年通り女子の参加も多く、エントリーした全チームの間でトーナメントが行われた。

チャンピオンリーグ・エンジョイリーグともに白熱のゲームが続いて盛り上がり、毎年恒例のユニコーンズによるソングリーディングも披露された。さらに、放送研究会のアナウンスが円滑な試合進行に貢献しただけでなく、大会を大いに盛り上げてくれた。



2) 塾内バスケットボール大会

1. 開催日：平成21年7月4日（土）
2. 会 場：日吉記念館
3. 開催時間：9:00～19:00
4. 参加チーム数：24チーム
5. 参加者数：約280名（登録選手約180名、観客約100名）
6. 試合数（1試合8分×2）
メインリーグ
予選リーグ戦18試合、決勝トーナメント7試合
エンジョイリーグ
予選リーグ戦18試合、決勝トーナメント7試合
7. 協 力：放送研究会（K-Sound）
ユニコーンズ・ソングリーダーズ
日本体育大学バスケットボール部
大塚製薬（株）
8. 参加チーム抽選会：平成21年6月25日（木）
18:00～20:00 スポーツ棟2階講義室
9. 応募チーム：50チーム
10. 結 果
メインリーグ
優勝：がけっぷちダンサーズ
2位：正常位学園前
3位：ギニュー特戦隊
VIRGIN☆岩手

エンジョイリーグ

優勝：七夕祭チンチロリン

2位：アスパイアランツ

3位：SLASH

鳥取城北OB

11. コメント：日吉記念館工事の関係上、例年より開催が前倒しとなったにもかかわらず、本年度も多数のチームが参加を希望し、抽選により、メインリーグ18チーム、エンジョイリーグ18チームによるリーグ戦及びトーナメントによる白熱した戦いが繰り広げられ、大盛況だった。例年通りバスケットボールの授業を履修した学生の有志がポスター作成や組み合わせ、当日の大会運営を行った。また、当日の音響や実況は放送研究会・K-Soundが、ハーフタイムショーはユニコーン・ソングリーダーズが華やかに大会を彩った。審判は日本体育大学バスケットボール部の協力を仰いだ。これら学生による大会運営は、体育研究所の使命である塾内のスポーツ振興に大きな役割を果たしていると思われる。



3) 塾内卓球大会

1. 開催日：平成21年12月19日（土）
2. 会場：スポーツ棟B1F卓球場
3. 開催時間：8:30～15:10
4. 参加者数：のべ70名（シングルス36名、ダブルス17ペア）
5. ゲーム形式：11点3セットマッチ
6. 結果

【シングルス（経験者の部）】

優勝：中村悠輔

準優勝：吉田 武

【シングルス（初心者の部）】

優勝：横山尚明

準優勝：須田芳正

【ダブルス（経験者の部）】

優勝：中村悠輔・長澤匡章ペア

準優勝：今村大全・小松広和ペア

【ダブルス（初心者の部）】

優勝：横山尚明・壺井教祐ペア

準優勝：本間郁郎・板垣悦子ペア

7. コメント：今年度の塾内卓球大会も日吉キャンパス内スポーツ棟B1Fの卓球場で開催された。今年は前年度の延べ40名を大きく上回る延べ70名に参加していただき、大盛況であった。試合も終始白熱した戦いとなった。また、午後の部開始時には、体育実技科目「ボディメイクエクササイズ」を受講している有志学生9名で結成されたダンスチームが、この日のために準備した演目「Pecori Night」が披露してくれ、さらなる盛り上がりを見せた。



2. 体育科目ガイダンス期間中のイベント

1) 『プール見学ツアー』

1. 期間：平成21年4月9日（木）～15日（水）
2. 時間：① 前半ガイダンス終了時（全クラス）～次回開始まで

② 後半ガイダンス終了時（全クラス）
～次時限開始まで

3. 場 所：協生館プール

4. 参加人数：147名

5. コメント：平成21年度より体育実技の場として使われ始めた協生館地下1階のプール施設を紹介する目的で行った。50m プール（国内公認プール）と飛込専用プールの2つがあり、50m プールの約3分の1は可動床で目的に応じた幅広い利用が可能となっている。水泳履修予定者以外の塾生も参加し、最新の施設に驚きと感嘆の声を上げていた。

3. 公開講座

1) 健康ジョギング教室

1. 期 間：平成21年11月30日（月）～12月18日（金）計6回

（11/30月、12/4金、7月、11金、14月、18金）

2. 時 間：18:00～19:30

3. 会 場：日吉陸上競技場及び協生館B1Fトレーニングルーム及びエクササイズスタジオ

4. 講 師：松田雅之（体育研究所准教授）
瀬古利彦（S&B食品(株)スポーツ推進局局長）

横田真人（総合政策学部4年）

5. 参加者：43名（男性15名、女性28名）

6. 受講料：6,000円（教職員3,000円）

7. コメント：全日程を通して、ウォーキングやジョギングの効果的な実践方法を解説しながら、約50分間のジョギングを実施した。ジョギングの実施にあたり、心拍数・歩数などの確認や、適正な運動量を指示した。雨天時（12/11）には体組成測定やエアロバイクによるトレーニング、ダンスの体験レッスンを行った。12月14日には、特別講師として昨年同様、瀬古利彦氏を招き、競技場を走り、その

後ダンススタジオにて、講師を囲んで楽しく懇談した。また12月18日には横田真人君を招き、日本新記録を樹立した模範走を披露してもらった。

4. 所内施設の開放

1) トレーニングルーム（1階）の開放

1. 期 間：平成21年5月8日（金）～7月10日（金）、10月5日（月）～12月22日（火）、平成22年1月8日（金）～1月22日（金）

2. 曜日時間：月・火・金 15:00～18:00

3. 利用者数：701名

（春学期306名、秋学期395名）

4. 担当者

月：牛山潤一・森下愛子

火：学生トレーナー

金：石手靖・須田芳正・鳥海崇

5. コメント：平成21年度より体育実技の場としても使われるようになったトレーニングルームは、協生館の地下1階に位置する。本年度も授業以外に開放期間を設け、担当者の監督の下、学部・学年を問わず多くの塾生が利用した。マシンエクササイズやエアロバイクなどを行えるトレーニングスペース、フリーウェイトトレーニングを主として行えるフリーウェイトスペースがあり、機能としては充実しており、素晴らしい施設である。今後は、塾生たちがメディアセンターを利用して多くの情報を得るように、より多くの人々がトレーニングルームを利用し、心身の健康を獲得すれば幸いである。

2) 多目的コートの貸出

1. 曜日時間：平日 授業終了後
土日祝日 終日可
2. 利用状況：283団体
(春学期138団体、秋学期145団体)
3. 日数：203日 / 318日稼働
(春学期100日 / 166日稼働、秋学期103日 / 152日稼働)
4. コメント：第3校舎下のコートでは、バレーボールやフットサルなどができ、塾生に貸し出しを行っている。代表責任者が学生証持参の上、体育研究所受付にて予約をすることができ（電話予約は不可）、原則として一団体の予約は一回のみとしている（複数日の予約を受け付けていない）。予約日当日、体育研究所受付にてバレーボールコートの鍵を借り、翌朝返却という形にしている。長期休暇中も貸し出しは行っており、平成21年度は6月、10月、11月の利用団体数が多く、少なかったのは4月、2月、3月であった。授業期間でかつ、塾生が学校生活に慣れてきた頃に利用が増えることから、今後も多目的コートの貸出しの認知度を上げ、より多くの塾生が汗を流して健康維持に努めてくれたら幸いである。



IV. 業務活動記録

IV. 業務活動記録

平成21年度総務分野関係報告

1 人事

- (1) 就任(新任)
鳥海 崇君(専任講師)(4月1日付)
森下愛子君(助教(有期))(4月1日付)
- (2) 就任(薬学部より移籍)
板垣悦子君(准教授)(4月1日付)
- (3) 退職(任期満了)
牛山潤一君(3月31日付)
- (4) 職員の退職(任期満了)
小高早紀子君(3月31日付)
- (5) 主事の交代
富山優一君から
石井宜明君(11月1日付)

2 塾内役職

- (1) 教職員評議員
植田史生君
- (2) 大学寄宿舍舎監
近藤明彦君
- (3) 大学教養研究センター運営委員
植田史生君(所長)
- (4) 大学教養研究センター所員
近藤明彦君、佐々木玲子君、
松田雅之君、石手 靖君、
村山光義君、吉田泰将君、
加藤大仁君、野口和行君、
村松 憲君
- (5) 大学学生総合センター副部長(日吉支部)
石手 靖君
- (6) 体育会副理事
綿田博人君、石手 靖君
- (7) 日吉キャンパスカレンダー編集委員
奥山静代君
- (8) 極東証券寄附講座運営委員
吉田泰将君

- (9) 日吉行事企画委員会(HAPP)委員
石手 靖君
- (10) 立科山荘運営委員会委員
村山光義君
- (11) 日吉キャンパス公開講座運営委員会委員
佐々木玲子君
- (12) 記念館運営委員会委員
植田史生君、加藤幸司君
- (13) 総合研究推進機構研究倫理委員会研究
倫理審査委員会委員
佐々木玲子君(10月1日～)

3 研究所内役職の主なもの

- (1) 所長
植田史生君
- (2) 学習指導主任
綿田博人君
- (3) 学習指導副主任
村山光義君
- (4) 総務委員会委員長
吉田泰将君
- (5) 教育委員会委員長
綿田博人君
- (6) 研究委員会委員長
村松 憲君
- (7) スポーツ振興委員会委員長
石手 靖君
- (8) 将来構想委員会委員長
加藤大仁君
- (9) 50周年記念事業推進委員会委員長
佐々木玲子君

4 留学より帰国

- 須田芳正君(オランダ)(8月31日)

5 留学期間延長

- 野口和行君(アメリカ合衆国)
(平成22年3月20日～平成23年3月19日)

6 記念館の改修

取り壊し・建て替えを検討していた記念館は、耐震補強とフローア等の改修工事を行い、引き続き使用することとなった。3月12日に完成引渡しが行われ、来年度から通常通り、使用できることとなった。

7 その他

所長の任期満了に伴い、「体育研究所所長選挙規則（内規）」に基づき所長選挙を次のとおり実施し、新所長に植田史生君を選出した。

投票：6月30日、7月7日
於・スポーツ棟会議室

（主事 石井宣明）

平成21年度活動報告書

平成22年7月1日発行

[非売品]

編集：活動報告書編集委員会

吉田 泰将（委員長）

村山 光義 須田 芳正 加藤 幸司

奥山 静代 鳥海 崇 森下 愛子

発行：慶應義塾大学体育研究所

〒223-8521 横浜市港北区日吉4-1-1

制作：(有)梅沢印刷所

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45